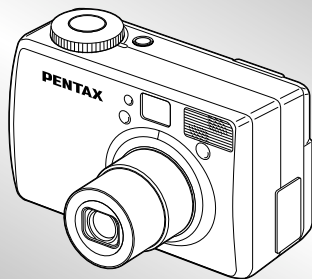
PENTAX

デジタルカメラ

Optio 430RS
Optio 330RS

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に
必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタルカメラをお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を充分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また、本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

本書は「Optio 430RS」と「Optio 330RS」共通の説明書になっております。ただし、本文中の430RSは「Optio 430RS」を、330RSは「Optio 330RS」個別の機能をあらわしています。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

本機を使用するにあたって

・強い電波や磁気を発生する施設などの周囲では、カメラが誤動作を起こす場合があります。
・液晶モニタに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99%以上の有効画素数がありますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

商標について

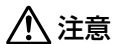
CompactFlash、コンパクトフラッシュおよびCFはSanDisk Corporationの商標です。
PENTAXは旭光学工業株式会社の登録商標です。
オプティオおよびOptioは旭光学工業株式会社の商標です。
その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。
USBドライバは米国インシリコン社のソフトウェアを使用しています。
本製品はPRINT Image Matching IIに対応しています。PRINT Image Matching II対応プリンタでの出力及び対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。PRINT Image Matching IIに関する権利は全てセイコーエプソン株式会社に帰属します。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび液晶モニタの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

ご注意ください

この製品の安全性については充分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

⚠ 警告　このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

⚠ 注意　このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

警告

・カメラを分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
・落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
・ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
・ACアダプタは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外のACアダプタをご使用になったり、専用のACアダプタを指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。
・使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、電池またはACアダプタを取り外したうえ、当社のお客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
・ACアダプタ使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグをはずし、使用を中止してください。機器の破損・火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

・電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
・万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こした時は、速やかに電池を取り出してください。その際は、やけどに充分ご注意ください。
・このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ちつづけると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
・電池の液が眼に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。
・電池の液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害をおこす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

取り扱い上の注意

- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得べかりし利益の損失など）については、保証しかねます。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- 防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
- 強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。
- 約60℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 高性能を保つため、1〜2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴を生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- カメラの使用温度範囲は0℃〜40℃です。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- コンパクトフラッシュメモリカード（CFカード）の取り扱いについては、「CFカード使用上の注意」（p.15）をご覧ください。
- 専用の充電式リチウムイオンバッテリーD-LI2以外のバッテリーは使用しないでください。他のバッテリーを使用すると、カメラが破損し、動作しなくなります。

目次

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

●準備

お買い上げ後、写真を撮るまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影をはじめる前に、操作を行なってください。

●クイックスタート

一番簡単な撮影方法と再生方法を説明しています。すぐに撮影・再生をしたいときは、この操作方法をご利用ください。また、CFカードの活用方法についてご案内しています。

●機能共通操作

モードダイヤルや各ボタンの機能、メニューの使い方など、各機能に共通する操作について説明しています。詳しい内容は、「撮影」「再生・消去」「画像の編集・設定」の各章をご覧ください。

●撮影

さまざまな撮影の方法や、撮影に関する機能の設定方法について説明しています。

●再生・消去

撮影した画像の再生の方法や消去のしかたを説明しています。

●画像の編集・設定

撮影した画像の編集方法やカメラに関する機能の設定方法について説明しています。

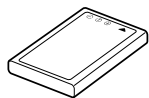
●付録

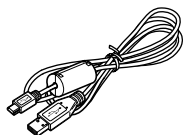
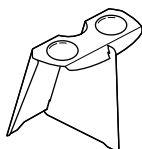
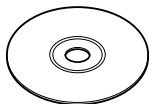
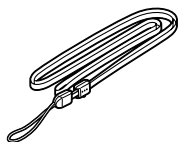
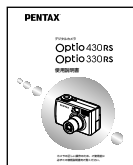
困ったときの対処のしかたや、別売品の案内をしています。

●操作説明中で使用されている表記の意味は次のようになっています。

記号	意味
☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。

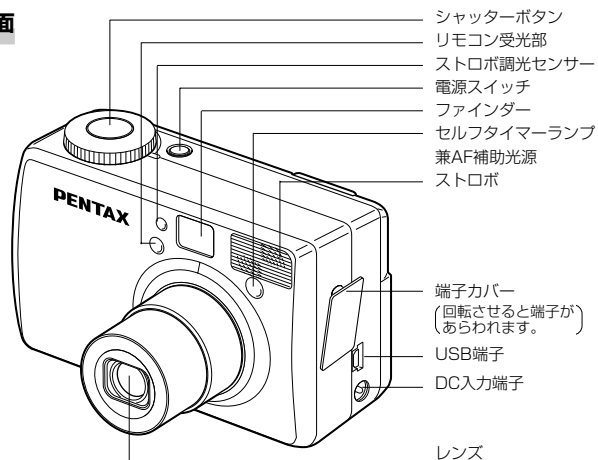
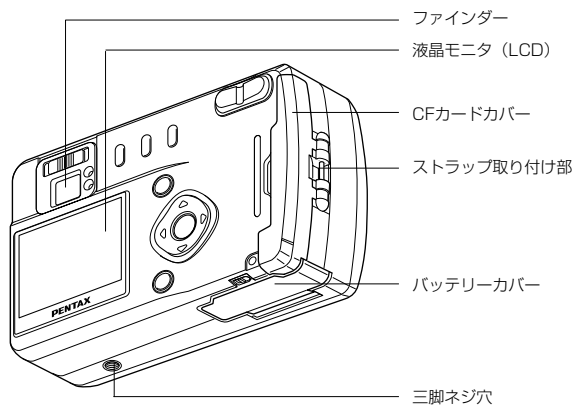
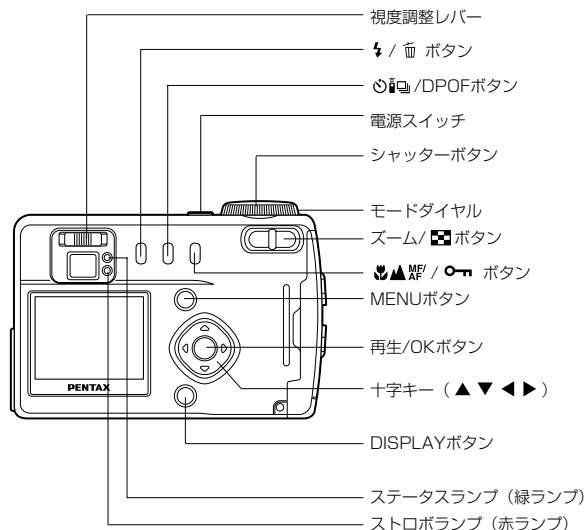
主な同梱品の確認

本体
Optio 430RS
または
Optio 330RS

充電式リチウムイオンバッテリー
D-LI2

バッテリー充電器キット
K-BC2J

USBケーブル
I-USB6

3Dイメージビュワー
O-3DV1

ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW5

ストラップ
O-ST5

使用説明書
（本書）

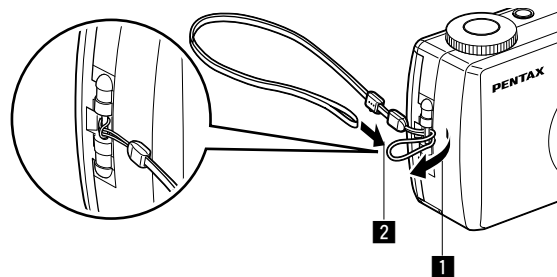
保証書

各部の名称

前面

背面

操作部の名称

●ガイド表示について

操作中は液晶モニタにボタン操作のガイドが表示されます。
ガイド表示では、ボタンは次のように表されます。

十字キー（▲）	▲	ズームボタン	
十字キー（▼）	▼	DISPLAYボタン	DISP DISPLAY
十字キー（◀）	◀	DPOFボタン	DP
十字キー（▶）	▶	ボタン	
MENUボタン	MENU	ボタン	
再生/OKボタン	OK	シャッターボタン	SHUTTER

ストラップを取り付ける

ストラップの細いひもを、ストラップ取り付け部に通して取り付けます。

電源を準備する

バッテリーを充電する

はじめてご使用になるときや、「バッテリ容量が無くなりました。」というメッセージが表示されたときは、バッテリーを充電してください。

1 バッテリー充電器にACコードを接続する

2 ACコードをコンセントに差し込む

3 バッテリーをラベルが下向きになるようにセットする

充電中はチャージインジケータが赤色に点灯します。

充電が完了すると、チャージインジケータが緑色に点灯します。

4 充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り出す

- 充電時間は、最大で約120分です。周囲の温度が0℃～40℃の範囲で充電してください。
- 充電時間は、周囲の温度や充電状態によって異なります。
- バッテリーの寿命がくると、正しい充電を行なっても使用できる時間が短くなります。新しいバッテリーと交換してください。

- お買い上げ時や長期間使わなかったバッテリーはご使用になる前に、必ず充電してください。
- 充電式リチウムイオンバッテリーD-LI2以外のバッテリーは充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- バッテリーを正しい向きにセットしてもインジケータランプが点灯しない場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーをセットする

同梱のバッテリーをセットします。はじめてご使用になるときは、バッテリーを充電してからセットしてください。

1 開閉レバーを矢印の方向に押し、バッテリーカバーを開ける

2 バッテリーのラベルをカメラ背面側に向けて、挿入する

3 バッテリーカバーを閉じる

長時間連続してご使用になるときは、ACアダプタキット（K-AC2J、別売）をご使用ください。（☞ p.13）

- 充電式リチウムイオンバッテリーD-LI2以外のバッテリーは使用しないでください。他のバッテリーを使用すると、カメラが破損し、動作しなくなります。
- 電源スイッチがオンのときは、バッテリーカバーを開けたり、バッテリーを取り出したりしないでください。
- カメラを長時間使用しない場合は、バッテリーを取り出した状態で保管してください。
- バッテリーを長時間取り出していると、日時の設定がリセットされることがあります。
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると、故障の原因になります。

●使用時間の目安（フル充電時）

撮影可能枚数：約250枚（ストロボ使用率50%、液晶モニタオン）
再生時間　　：約150分

・この数値は、当社の測定条件によるものです。撮影モード、撮影状況により異なります。

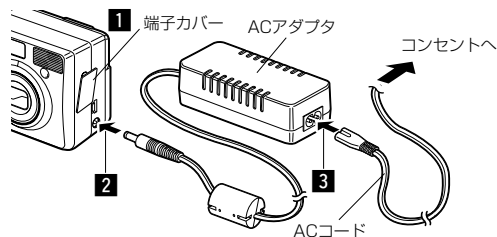
使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低くなることがあります。

●バッテリーの残量表示

液晶モニタに表示された で、バッテリーの残量を確認できます。

表示		状態
（緑点灯）	：	バッテリーがまだ十分に残っています。
↓		
（緑点灯）	：	少し減った状態
↓		
（黄点灯）	：	だいぶ減った状態
↓		
（赤点灯）	：	残量がほとんどありません。
↓		
「バッテリ容量が無くなりました。」	：	メッセージの表示後、電源オフとなります。

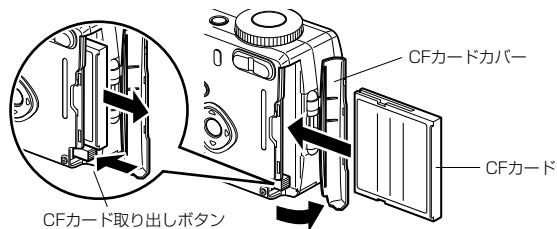
●リサイクルについて

このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。ご使用済みの小型充電式電池の廃棄に際しては、端子部に絶縁テープをはって、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

ACアダプタを使用する

液晶モニタを長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、ACアダプタキットK-AC2J（別売）のご使用をおすすめします。

1. **カメラの電源が切れていることを確認してから、端子カバーを回転させる**
2. **ACアダプタのDC端子を、カメラのDC入力端子に接続する**
3. **ACコードをACアダプタに接続する**
4. **コンセントに電源プラグを差し込む**

・ACアダプタを接続または外すときは、必ずカメラの電源が切れた状態で行なってください。
・電源および接続ケーブルは、しっかりと差し込んでください。記録中にケーブルが外れると、データが破壊されることがあります。
・ACアダプタをご使用になるときは、ACアダプタキットK-AC2Jの使用説明書をあわせてご覧ください。

CFカードをセットする／取り出す

撮影した画像は、コンパクトフラッシュ（CF）カードに記録されます。CFカード（市販品）をセットするときや取り出すときは、必ず電源をオフにしてください。
CFカードをセットしていないときは、撮影した画像はカメラの内蔵メモリ（約11MB）に記録されます。

セットする

1. CFカードカバーを開ける
2. CFカードの▲面をレンズ側に向け、奥まで押し込む
3. CFカードカバーを閉じる

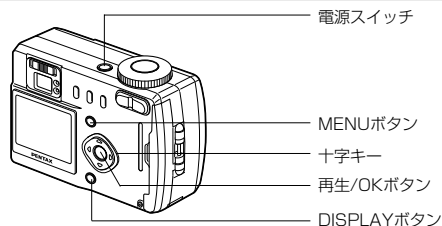
取り出す

1. CFカードカバーを開ける
2. CFカード取り出しボタンを押し、カードを取り出す
3. CFカードカバーを閉じる

・電源がオンのときに、CFカードカバーを開けると、警告音が鳴り、強制的に電源オフになります。
・画像を保存中にCFカードカバーを開けると、保存は中断されます（画像は保存されません）。

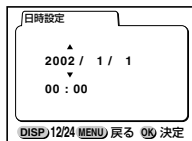
●CFカード使用上の注意

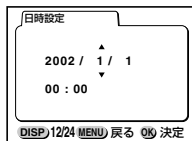
・CFカードカバーを開けるときは、必ず電源を切った状態で行なってください。
・カメラ使用直後にCFカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
・CFカードへのデータ記録中や、他の機器との通信中には、CFカードカバーを開けたり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
・CFカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
・未使用または他のカメラで使用したカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。フォーマットについては「フォーマットする」（p.112）をご覧ください。
・CFカードのフォーマット中は、絶対にCFカードカバーを開けないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
・Optio 430RS/330RSでCFカードに記録されたデータは、Optio 430/330/230では正しく再生されません。また、Optio 230で記録されたデータは、Optio 430RS/330RSでは正しく再生されません。
・CFカードに保存したデータは、以下の条件で消去される場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  ・使用者がCFカードの取り扱いを誤ったとき
  ・CFカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  ・長期間カードを使用しなかったとき
  ・CFカードアクセス中に（ステータスランプとストロボランプが、緑と赤に点滅しているときに）、カードを取り出したり、ACアダプタやバッテリーを抜いたとき
・CFカードには寿命があります。長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
・静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や、保管は避けてください。
・急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。

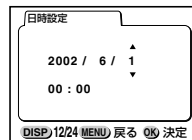
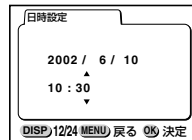
初期設定をする

カメラの電源を入れたときに、初期設定を行う画面が表示された場合は、下記の手順にしたがって、現在の日時を設定してください。なお、はじめてカメラの電源を入れたときに、液晶モニタの右下に日時が表示された場合は、「日付/時刻を変更する」（p.117）にしたがって、正しい日時を設定してご使用ください。

日時を設定する

現在の日付と時刻を設定します。

1 十字キー（▲▼）を押して、西暦年を設定する

2 十字キー（▶）を押す

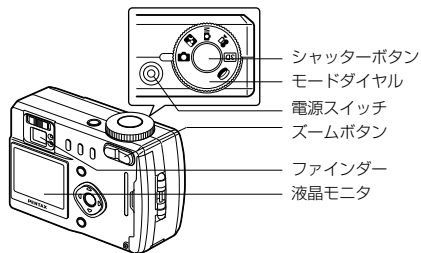
「月」の上下に▲▼が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で月を設定し、十字キー（▶）を押す

「日」の上下に▲▼が表示されます。

4 3を繰り返して、「日」「時」「分」を設定する

5 DISPLAYボタンで「12時間/24時間表示」を切り替える

6 設定が終了したら、時報と同時に再生/OKボタンを押す

設定内容を確認する画面が表示され、撮影できる状態になります。

・初期設定を行う画面が表示されている間にMENUボタンを押すと、初期設定がキャンセルされますが、撮影することはできます。この場合は、次回電源を入れたときに再度、初期設定を行う画面が表示されます。
・ここで設定した内容は、設定後も変更することができます。操作方法は「日付/時刻を変更する」（p.117）をご覧ください。

静止画を撮影する

簡単に静止画を撮影します。ストロボは明るさに応じて自動的に発光します。

1 電源スイッチを押す

電源がオンになります。

2 モードダイヤルを 📷 に合わせる

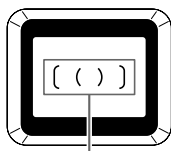
3 液晶モニタをオンにする

DISPLAYボタンを押して液晶モニタに撮影画面を表示させます。液晶モニタ中央のフォーカスフレームの中が、自動でピントが合う範囲です。ズームボタンを押すと被写体の大きさが変わります。

フォーカスフレーム

被写体が大きく写ります。

被写体が小さく写ります。

ファインダーをのぞいて、被写体の大きさを確認することができます。

フォーカスフレーム

ピントを合わせる範囲や位置を変える ☞ p.56
ストロボを自動的に発光しないようにする ☞ p.60
撮影時の情報を表示する ☞ p.32

4 シャッターボタンを押す

撮影した画像が液晶モニタに0.5秒間表示(クイックビュー)されます。撮影した画像を保存中は、ファインダー横の緑と赤のランプが交互に点滅します。

シャッターボタンの押しかた

シャッターボタンは「半押し」と「全押し」の2段階になっています。

●半押し

シャッターボタンを軽く押すと(半押し)、ピント情報、露出、ホワイトバランスがロックされます。シャッター速度、絞り値は、シャッターボタンを半押ししたときだけ表示されます。液晶モニタやステータスランプ、ストロボランプは次のような情報を表します。

① ピント合わせが行なわれる範囲(AFエリア)

ピントが合うと枠が緑色に点灯します。ピントが合っていないときは表示されません。

② ストロボマーク

シャッターを切るときのストロボの発光状態を表示します。

ステータスランプとストロボランプの状態

	ステータスランプ(緑)	ストロボランプ(赤)
点灯	ピントが合っています	充電完了(ストロボ発光表示)
点滅	ピントが合っていません	充電中

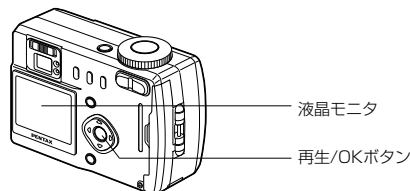
●全押し

シャッターボタンを下まで押すと(全押し)、撮影されます。

クイックビュー

撮影直後に画像が表示される「クイックビュー」は、初期設定では0.5秒間表示されます。クイックビュー表示中に 🗑 ボタンを押すと、消去画面が表示されます。「消去」を選び、再生/OKボタンを押すとその画像を消去することができます。

クイックビューの表示時間を設定する ☞ p.68

静止画を再生する

画像を再生する

静止画を再生します。

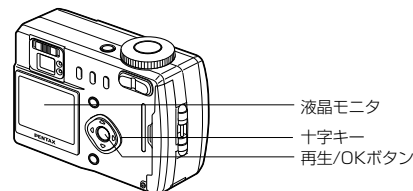
1 撮影後に再生/OKボタンを押す

撮影した画像が液晶モニタに表示されます。画像表示中に 🗑 ボタンを押すと、消去画面が表示されます。「消去」を選び、再生/OKボタンを押すとこの画像を消去することができます。

ファイル No.

もう一度再生/OKボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、撮影できる状態に戻ります。

- 液晶モニタに表示された画像は、ズームボタンで拡大して見ることもできます。
- 再生画面に切り替えると「ファイルNo.」の数字の最も大きい画像が最初に表示されます。

拡大して再生する ☞ p.74

前後の見たい画像を再生する

静止画を前後に一枚ずつ送って再生します。

1 撮影後に再生/OKボタンを押す

撮影した画像が液晶モニタに表示されます。

2 十字キー（◀ ▶）を押す

◀ 前の画像が表示されます。

▶ 次の画像が表示されます。

画像表示中に 🗑 ボタンを押すと、消去画面が表示されます。「消去」を選び、再生/OKボタンを押すとこの画像を消去することができます。

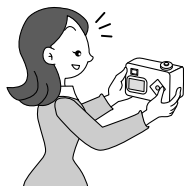
もう一度再生/OKボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、撮影できる状態に戻ります。

- 動画は、１コマ目の画像が表示されます。
- 画像が保存されていないときは、「画像がありません。」と表示されます。

CFカードの活用方法

CFカードをセットしているとき、撮影した画像はCFカードに記録されます。CFカードに記録された画像は、カメラ本体で見たり、パソコンに転送したり、プリントしたりできます。

カメラで見る

デジタルカメラの便利なところは、撮ったその場ですぐに画像を確認できること。構図や明るさを確認して、失敗してもまた撮り直しできます。

静止画を再生する ☞ p.74

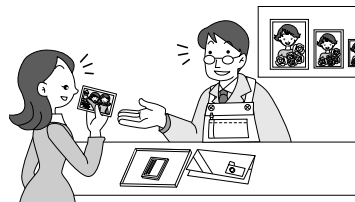
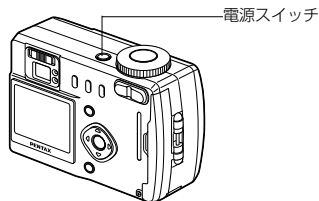
パソコンで見る

USBドライバのインストールは最初の１回だけ、後はカメラをUSBケーブルで接続して、画像を読み込ませるだけで、撮った画像をパソコンで見たりパソコンに転送して加工したりできます。また、カメラからCFカードを取り出してカードリーダを使ってデータを転送したり、ノートパソコンの場合は、CFカードをセットしたカードアダプタをカードスロットに挿入して画像データを転送できます。

Windowsパソコンで画像を見る ☞ p.85
Macintoshで画像を見る ☞ p.100

プリントサービスで見る

画像を記録したCFカードをプリント取扱い店に持っていくと、従来の写真と同様にプリント注文できます。
あらかじめDPOF(Digital Print Order Format)の設定をしてから**DPOF対応のプリント取扱い店**に持っていくと、プリント枚数を指定したり、写真に日付を入れることができます。

プリントサービスの設定をする（DPOF） ☞ p.82

電源をオン／オフする

電源スイッチのオン/オフを切り替えます。

1 電源スイッチを押す

電源がオンになります。

電源をオンにすると、レンズカバーが開き、レンズが少し前に出ます。

もう一度電源スイッチを押すと、電源がオフになります。

モードを切り替える

撮影ができる状態を撮影モード、再生や消去ができる状態を再生モードといいます。撮影モードと再生モードの切り替えは再生/OKボタンを押して行います。また、再生モードのときにシャッターボタンを半押ししても撮影モードに移行します。

撮影モード

[オートモードアイコン]	オートモード	ほとんどの設定をカメラにまかせて撮影します。	p.18,34
[夜景モードアイコン]	夜景モード	夜景など暗いシーンを撮影します。	p.35
[マニュアル露出モードアイコン]	マニュアル露出モード	絞り、シャッター速度をマニュアルで設定して撮影します。	p.36
[動画モードアイコン]	動画モード	動画を撮影します。	p.40
3D	3D撮影モード	3D画像を撮影します。	p.45
[デジタルフィルタモードアイコン]	デジタルフィルタモード	赤、青、緑などさまざまな画像フィルタを使用して画像を撮影します。	p.50

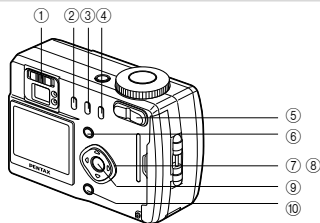
1 モードダイヤルを回して、指標に [オート] [夜景] [マニュアル露出] [動画] [3D] [デジタルフィルタ] のいずれかを合わせる

2 再生モードのときは、再生/OKボタンを押すか、シャッターボタンを半押しする

再生モード

再生/OKボタン	再生モード	撮った画像を再生します。	p.74

1 撮影モードのときに再生/OKボタンを押す

ボタンの機能を使用する

撮影モード時

①**視度調整レバー**
視力にあわせてファインダーを調整します。（☞ p.55）

② **ボタン**
ストロボの発光方法を切り替えます。（☞ p.60）

③ **ボタン**
撮影方法を次のように切り替えます。
セルフタイマー撮影（☞ p.39）リモコン撮影（☞ p.44）
連続撮影（☞ p.38）インターバル撮影（☞ p.52）
* 撮影モードが のときは、連続撮影はスキップされます。

④ **ボタン**
フォーカスモードを切り替えます。（☞ p.56）

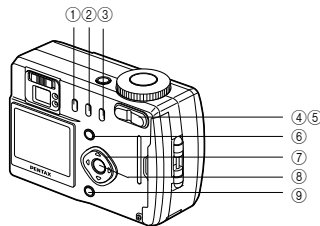
⑤**ズームボタン**
被写体の大きさを変えます。（☞ p.42）

⑥**MENUボタン**
撮影モードで設定できるメニューを表示します。（☞ p.30、31）

⑦**十字キー（◀ ▶）**
 3D モードで露出補正をします。（☞ p.59）
M モードでシャッター速度を切り替えます。（☞ p.36）
 モードでスリム度を設定します。（☞ p.50）

⑧**十字キー（▲ ▼）**
MF モードでピントを合わせます。（☞ p.57）
M モードでは絞り値を切り替えます。（☞ p.36）
 モードではフィルタの種類を選びます。（☞ p.50）

⑨**再生/OKボタン**
再生モードに切り替えたり、メニュー項目を決定します。（☞ p.25、28）

⑩**DISPLAYボタン**
液晶モニタに表示される情報を切り替えます。（☞ p.32）

再生モード時

① **ボタン**
画像を消去します。（☞ p.79）

② **DPOFボタン**
プリントサービスのための設定をします。（☞ p.82）

③ **ボタン**
画像を消去できないようにします。（☞ p.81）

④**ズームボタン**
液晶モニタに表示される画像の大きさを変えます。（☞ p.74）

⑤ **ボタン**
一度に9画像を表示します。（☞ p.78）

⑥**MENUボタン**
再生モードで設定できるメニューを表示します。
（☞ p.30、31）

⑦**十字キー（◀ ▶）**
画像を一枚ずつ表示します。（☞ p.21）

⑧**再生/OKボタン**
撮影モードに切り替えたり、メニュー項目を決定します。
（☞ p.25、28）
拡大再生や9画像表示時は通常再生に切り替えます。
（☞ p.74、78）

⑨**DISPLAYボタン**
液晶モニタに表示される情報を切り替えます。（☞ p.77）

MENUを使用する

MENUボタンを押すと、液晶モニタにメニューが表示されます。メニューを使用して、撮影のための機能を設定したり、電源をオフにしたときに撮影のために設定した値をメモリ（保存）したり、カメラの設定を変更することができます。

メニューの操作方法

メニュー操作中は、液晶モニタにガイドが表示されます。

1 MENUボタンを押す

メニュー画面が表示されます。選択されている部分は緑の四角枠で表示されます。

2 十字キー（◀ ▶）を押す

十字キー（◀▶）でメニュー画面が切り替わります。

3 十字キー（▲ ▼）で項目を選択する

十字キー（▲▼）で選択枠が上下に移動します。

4 十字キー（◀ ▶）で設定を切り替える

4′ または選択画面があるときは、十字キー（▶）で選択画面に移行する

設定が終了したら、再生/OKボタンでメニュー画面に戻ります。

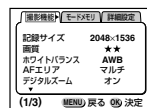
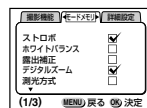
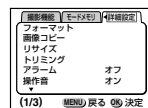
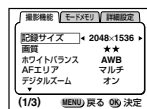
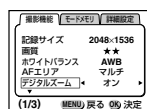
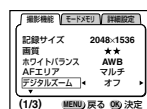
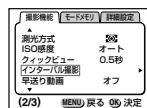
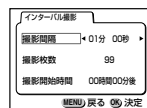
5 再生/OKボタンを押す

設定が保存され、撮影または再生できる状態に戻ります。

注意

- 再生/OKボタンを押す前に、MENUボタンを押してメニュー画面を閉じると、設定は保存されません。
- 再生/OKボタンを押してメニュー画面を閉じても、電源をオンにしたまま電池を取り出したりするなど誤った操作で電源をオフすると設定は保存されません。

機能共通操作

操作の一例

メニュー表示中にシャッターボタンを半押しすると撮影モードに切り替わりますが、設定は保存されません。

機能共通操作

メニュー一覧

●「撮影機能」メニュー

項目	内容	初期値	参照
記録サイズ	画像の解像度が選べます	2240 × 1680 (430RS) 2048 × 1536 (330RS)	p.61
画質	画像の圧縮率が選べます	★★	p.62
ホワイトバランス	撮影時の光の状態に合わせて色を調整します	AWB	p.63
AFエリア	オートフォーカスの対象になる範囲を変更します	マルチ	p.65
デジタルズーム	デジタルズーム撮影ができます	オン	p.43
測光方式	露出を決定する測光方式を設定します		p.66
ISO感度	ISO感度を設定します	オート	p.67
クイックビュー	クイックビューの表示時間を設定します	0.5秒	p.68
インターバル撮影	設定した時間間隔で撮影します		p.52
早送り動画	フレームレートを遅らせて動画を撮影します（早送りのように再生されます）	オフ	p.54
立体視法	3D写真を撮影するときの立体視法を設定します	平行法	p.45
シャープネス	シャープネスを設定します	標準	p.69
彩度	彩度を設定します	標準	p.70
コントラスト	コントラストを設定します	標準	p.71

●「モードメモリ」メニュー

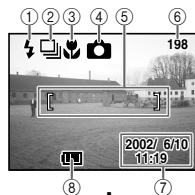
電源をオフにしたときに、撮影のために設定した値をメモリ（保存）するかどうかを選びます。
設定できる項目はp.72をご覧ください。

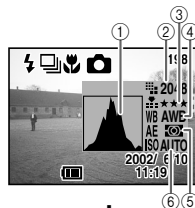
●「詳細設定」メニュー

項目	内容	初期値	参照
フォーマット	内蔵メモリやCFカードをフォーマットします		p.112
画像コピー	内蔵メモリからCFカードへ、またCFカードから内蔵メモリへ画像をコピーします		p.106
リサイズ	画像のサイズを変更します		p.110
トリミング	画像をトリミングします		p.108
アラーム	決まった時刻にアラームを鳴らします	オフ	p.113
操作音	ボタン操作音を設定します	オン	p.115
起動画面表示	電源を入れたときの起動画面を設定します	オン	p.116
日付表示スタイル	日付の表示形式を設定します	年/月/日	p.117
日時設定	日付/時刻を設定します	2002/ 1/ 1	p.117
ワールドタイム	ワールドタイムを設定します	オフ	p.118
Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を切り替えます	日本語	p.119
スリープ	節電機能を設定します	1分	p.120
オートパワーオフ	自動的に電源が切れるようにします	3分	p.120
クイック消去	オンに設定すると「消去」「全画像」が選択された状態で消去画面が表示されます	オフ	p.121
クイック拡大	ズームボタンを一度操作するだけで画像を最大拡大倍率で再生するように設定します	オフ	p.121
リセット	設定を初期値に戻します		p.122

撮影情報を表示する（DISPLAYモード）

DISPLAYオン

撮影情報を表示します。
①ストロボ　②撮影方法
③フォーカスモード　④撮影モード
⑤AFフレーム　⑥撮影可能残量
⑦日時　⑧バッテリーマーク

ヒストグラム表示

明度分布を表示します。横軸は明るさ（左端が最も暗く、右端が最も明るい）、縦軸はピクセル数を表わします。
①ヒストグラム　②記録サイズ
③画質　④ホワイトバランス
⑤測光方式　⑥ISO感度

DISPLAYオフ

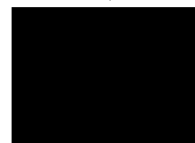
撮影情報を表示しません。

・オートフォーカス時には、AFフレームだけが表示されます。
・電池残量に変化があったときは、電池残量を表示します。
・設定を変更したときは、数秒間、設定内容を表示します。

液晶モニタオフ

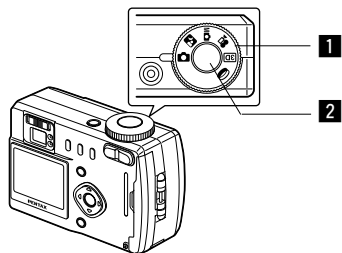
液晶モニタをオフにします。

DISPLAYオン

DISPLAYモードの設定を保存する ☞ p.72

ACアダプタを使用している場合は、電池残量は液晶モニタに表示されません。

動画モード、3D撮影モード、デジタルフィルタモードでは、液晶モニタはオフに設定できません。
また、デジタルズーム機能がオンのときに液晶モニタをオフにすると、デジタルズーム機能は解除されます。

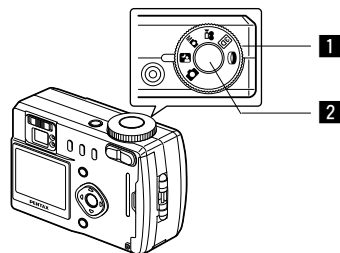
撮影する

CFカードをセットしているときは画像はすべてCFカードに記録され、CFカードをセットしていないときはカメラの内蔵メモリに記録されます。

カメラまかせで撮影する（オートモード）

モードダイヤルを に合わせると、ほとんどの設定をカメラにまかせて撮影できます。

1 撮影モードでモードダイヤルを に合わせる

2 シャッターボタンを押す

撮影されます。

シャッターボタンの押しかた ☞ p.19

暗いシーンを撮影する（夜景モード）

夜景など暗いシーンを撮影するのに適切な設定にセットされます。

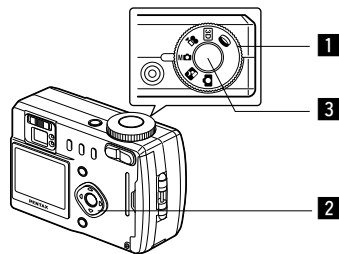
1 撮影モードでモードダイヤルを に合わせる

2 シャッターボタンを押す

撮影されます。

シャッターボタンの押しかた ☞ p.19
静止画を再生する ☞ p.20

夜景モードではシャッター速度が遅くなりますので、手ぶれにご注意ください。

撮影

マニュアルで設定して撮影する（マニュアル露出モード）

シャッター速度と絞りを手動で設定して撮影できます。

1 撮影モードでモードダイヤルを M📷 に合わせる

2 十字キーでシャッター速度と絞り値を切り替える

絞り値　シャッター速度

十字キー（▶）
　シャッター速度が遅くなります。
十字キー（◀）
　シャッター速度が速くなります。
十字キー（▲）
　絞りが明るくなります。
十字キー（▼）
　絞りが暗くなります。

設定したシャッター速度と絞り値の組み合わせが適正露出でない場合は、警告が表示されます。

（点灯）	適正露出との差が－2.0EV～－0.3EVの場合は、+0.3EV～+2.0EVの場合はが点灯し、数値が表示されます。
（点滅）	露出アンダーの場合は、露出オーバーの場合はが点滅します。
（点滅）	測光不能の場合点滅します。

3 シャッターボタンを押す

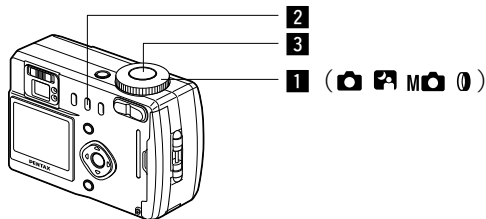
設定したシャッター速度と絞り値で撮影されます。

再生する ☞ p.74

メモ

シャッター速度と絞り値は、電源をオフにしても保存されます。

注意

・このモードでは、露出補正はできません。
・フォーカス方法をマニュアルフォーカスに設定していると、十字キー（▲ ▼）は手動ピント合わせボタンになっているので、絞り値を切り替えることはできません。
・ストロボの発光方法で「オート」と「オート+赤目軽減」は選択できません。

連続して撮影する（連続撮影）

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。

1 撮影モードでモードダイヤルを M のいずれかに合わせる

2 ボタンを押して、液晶モニタに を表示させる

連続撮影モードに切り替わります。

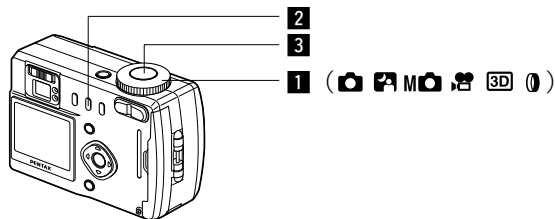
3 シャッターボタンを押す

シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。

シャッターボタンを離すと、撮影が終了します。

静止画を再生する ☞ p.20

- CFカードまたは内蔵メモリの容量がいっぱいになるまで、連続撮影できます。
- 連続撮影の間隔は、記録サイズや画質の設定によって異なります。

- 連続撮影では、ストロボは発光しません。
- 動画モード、3D撮影モードでは、連続撮影はできません。

セルフタイマーを使って撮影する

シャッターボタンを押してから、10秒後に撮影します。

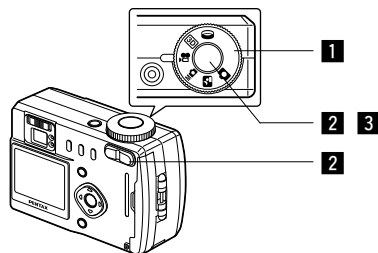
1 撮影モードでモードダイヤルを M 3D のいずれかに合わせる

2 ボタンを押して、液晶モニタに を表示させる

3 シャッターボタンを押す

セルフタイマーが起動し、セルフタイマーランプが点灯します。セルフタイマーランプが点滅をはじめてから約3秒後に撮影されます。

液晶モニタをオンにすると、カウントダウン表示されます。

静止画を再生する ☞ p.20

動画を撮影する（動画モード）

動画を撮影します。一度に撮影できる時間（1セット）は、最長30秒間です。なお、音声の記録はできません。

1 撮影モードでモードダイヤルを🎥に合わせる

液晶モニタに次の情報が表示されます。

①発光禁止マーク　②動画モードアイコン
③残り撮影可能時間　④残りセット数

2 シャッターボタンを押す

撮影が開始されます。ズームボタンで画像の大きさを切り替えることができます。

- 被写体が大きく写ります。
- 被写体が小さく写ります。

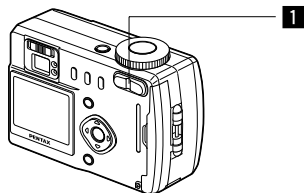
3 シャッターボタンを押す

撮影が終了します。残り撮影可能時間が表示されます。

シャッターボタンを押し続けて撮影する

シャッターボタンを1秒以上押し続けると、シャッターボタンを押し続けている間撮影されます。シャッターボタンから指を離すと撮影が終了します。

動画を再生する ☞ p.76

- 動画モードでは、ストロボは発光しません。
- 動画モードでは、連続撮影はできません。
- 動画モードでは、液晶モニタをオフにできません。

ズームを使って撮影する

ズームを使って撮影する範囲の望遠/広角撮影ができます。

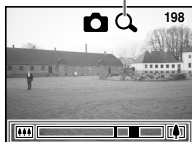
1 撮影モードでズームボタンを押す

デジタルズームマーク

ズームバー

望遠：被写体が大きく写ります。

広角：被写体が小さく写ります。

デジタルズーム機能がオフのときは、3倍までの光学ズーム撮影となります。デジタルズーム機能がオンのときは、被写体を最大6倍相当まで拡大して撮影できます。

ズーム位置を保存する ☞ p.72

デジタルズーム機能がオンのときに液晶モニタをオフにすると、デジタルズーム機能は解除されます。

デジタルズーム機能のオン/オフを切り替える

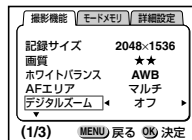
1 MENUボタンを押す

「撮影機能」メニューが表示されます。

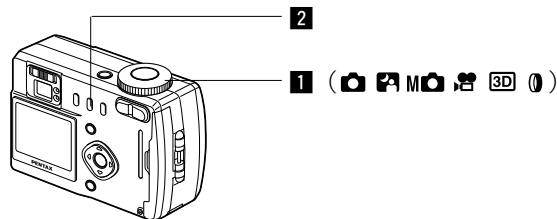
2 十字キー（▼）を押して「デジタルズーム」を選ぶ

3 十字キー（◀ ▶）で「オン」と「オフ」を切り替える

4 再生/OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

注意

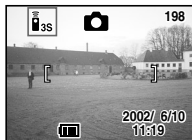
デジタルズーム機能がオンのときに液晶モニタをオフにすると、デジタルズーム機能は解除されます。

デジタルズーム機能のオン/オフを保存する ☞ p.72

リモコンを使って撮影する（別売）

リモートコントロールF（別売）を使って撮影します。

1 撮影モードでモードダイヤルを M 3D のいずれかに合わせる

2 ボタンを押して、液晶モニタに を表示させる

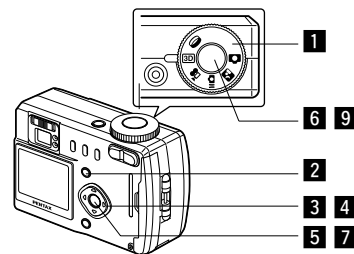
セルフタイマーランプが点滅し、リモコンで撮影できる状態になります。

3 リモコンのシャッターボタンを押す

セルフタイマーランプが早い点滅に変わり、約3秒後に撮影されます。

再生する ☞ p.74

- 本体のボタンは、通常と同じように操作できます。
- リモコンの届く距離は、カメラ正面から約5m程度です。
- リモコンのシャッターボタンを押してすぐに画像撮影されるようにするには、2で ボタンを押して、液晶モニタに を表示させます。

● リモコン用電池の寿命

リモコンからカメラへ約30,000回信号を送信することができます。電池の交換は最寄りのペンタックスお客様窓口にご相談ください。[有料]

3D写真を撮る（3D撮影モード）

平行法/交差法（p.47）で観察する3D写真を液晶モニタを使って撮影します。プリントした3D写真を、付属の3Dイメージビュワーで見ると立体的に見えます。

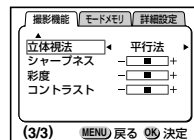
1 撮影モードでモードダイヤルを 3D に合わせる

2 MENUボタンを押す

「撮影機能」メニューが表示されます。

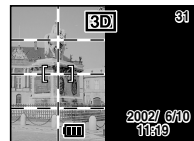
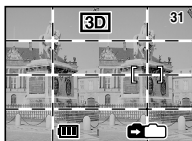
3 十字キー（▼）を押して「立体視法」を選ぶ

4 十字キー（◀ ▶）で「平行法」または「交差法」を選ぶ

3Dイメージビュワーで見るときは、平行法を選択してください。
裸眼で楽しむこともできます。

5 再生/OKボタンを押す

液晶モニタが左右に2分割され、左側に1枚目の画像を撮影するための画面が表示されます。

6 撮影ガイドを見ながら、1枚目の画像を撮影する

被写体が画面左側の中央に入るようにしてシャッターボタンを押します。

液晶モニタの左側に1枚目の画像が表示され、右側に2枚目の画像を撮影するための画面が表示されます。

7 撮影姿勢を変えずに右に移動する

8 撮影ガイドを見ながら、2枚目の画像を撮影する

被写体が画面右側の中央に入るようにしてシャッターボタンを押します。

9 再生/OKボタンを押す

液晶モニタに、1枚目と2枚目に撮影した両方の画像が表示されます。

・3D撮影を中止する場合は、撮影モードを3D撮影モード以外のモードに切り替えてください。
・1つの被写体を2回撮影するので、動くものを撮影しても立体画像は撮影できません。人物を撮影するときは、動かないように声をかけ、すばやく2枚目の撮影を行いましょう。三脚や適当な台を利用すれば、容易に右に水平移動できます。
・カメラの移動量は被写体までの距離の1/40程度が目安です。たとえば、被写体までの距離が3mあれば、移動量は3m÷40＝7.5cmとなります。立体感の見え方には個人差がありますので、あまり難しく考えず、下記の表を参考にしていろいろ移動距離を変えて撮影してみましょう。

被写体までの距離	0.1m	0.3m	0.5m	1m	3m	5m
カメラの移動距離	0.5cm	1cm	1.5cm	2.5cm	7.5cm	13cm

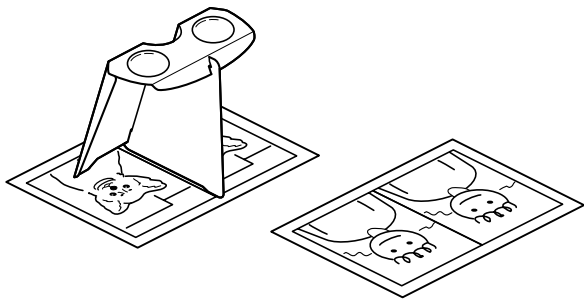
● 平行法と交差法による3D写真

人間の目は左右に約6～7cm離れているため、左右それぞれの目には微妙に角度のズレた景色が写っています。この左右の見え方を脳が処理することにより、立体的に見え、この原理を応用した撮影方法および写真の観察方法が3D写真です。
3D写真を観察する方法としては、左右の視線をほぼ平行にして（遠くを見るように）見る「平行法」と、左右の視線を交差させて見る「交差法」があります。なお、ビュワーを使わずに3D写真を観察するためには多少の練習が必要になる場合があります。

● 3Dイメージビュワーの組み立て方

付属の3Dイメージビュワーは、次のように組み立ててお使いください。

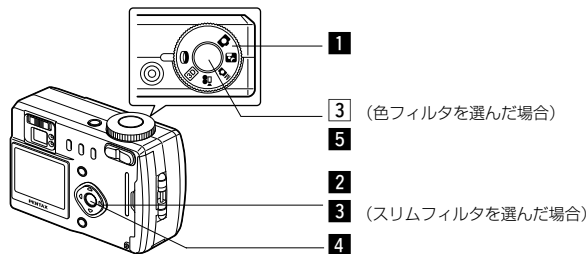
● 3Dイメージビュワーを使った3D写真の観察方法

横幅が11cmから12cm程度になるようにプリントし、2枚の画像の中心に3Dイメージビュワーの仕切りを合わせて3D写真を観察します。

パソコンに転送する ☞ p.85またはp.100

人間の左右の目の間隔には個人差があるため、同じ大きさのプリントを見ても立体視が困難な場合があります。特にプリントサイズが大きすぎたり、小さすぎたりすると立体視は非常に困難になります。何度かプリントを試してみて、立体視しやすい大きさを見つけてください。

- 3Dイメージビュワーで絶対に太陽はのぞかないでください。
- 3Dイメージビュワーを直接日光のあたる場所に放置しないでください。火災の原因となる恐れがあります。

● 3D写真の参考例

撮影

デジタルフィルタを使って撮影する（デジタルフィルタモード）

デジタルフィルタには、赤、青、緑などさまざまな色をした色フィルタと、被写体を縦や横に伸張するスリムフィルタとがあります。デジタルフィルタモードでは、これらのフィルタを使用して撮影を行います。

● 色フィルタについて

色フィルタには、白黒、セピア、赤、桃色、紫、青、緑、黄色の8種類のフィルタがあります。デジタルフィルタモードで色フィルタを選択すると、液晶モニタにはそれぞれの色フィルタの色味がかかった画像が表示され、その色で画像が撮影されます。

●スリムフィルタについて

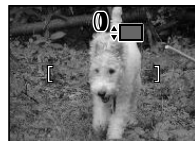
スリムフィルタを選択すると、被写体を縦や横に8段階に伸張して撮影することができます。

1 撮影モードでモードダイヤルを ◐ に合わせる

2 十字キー（▲ ▼）で使用するフィルタを選ぶ

色フィルタを選んだ場合

3 シャッターボタンを押す

撮影されます。

スリムフィルタを選んだ場合

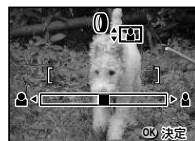
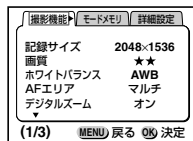
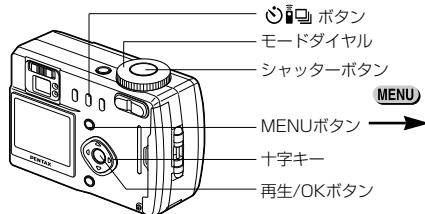
3 十字キー（◀ ▶）でスリム度を設定する

十字キー（▶）
　被写体が縦長になります。

十字キー（◀）
　被写体が横長になります。

4 再生/OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押す

撮影されます。

・スリムフィルタを使用しているときは、デジタルズームは使用できません。
・設定したスリム度を変更するには、一度他のフィルタを選択してから再度スリムフィルタを選択してスリム度を設定し直してください。
・スリム度を0以外に設定した場合、液晶モニタに表示されている範囲のみが画像として記録されます。

設定した時間間隔で撮影する（インターバル撮影）

設定した時間間隔で静止画を自動的に撮影します。

1 撮影モードでモードダイヤルを のいずれかに合わせる

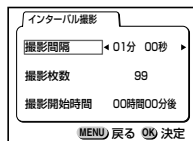
2 MENUボタンを押す

「撮影機能」メニューが表示されます。

3 十字キー（▼）を押して「インターバル撮影」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

「インターバル撮影」メニューが表示され、「撮影間隔」が選択されています。

インターバル撮影
撮影間隔 ◀ 01分 00秒 ▶
撮影枚数 99
撮影開始時間 00時間00分後
MENU 戻る OK 決定

5 撮影間隔を設定する

1. **十字キー（▶）を押す**

   「分」の上下に▲▼が表示されます。

2. **十字キー（▲▼）で分を設定し、十字キー（▶）を押す**

   「秒」の上下に▲▼が表示されます。

3. **十字キー（▲▼）で秒を設定し、十字キー（▶）を押す**

4. **十字キー（▼）を押す**

   選択枠が「撮影枚数」に移動します。

6 十字キー（◀▶）で撮影枚数を設定し、十字キー(▼)を押す

選択枠が「撮影開始時間」に移動します。

7 撮影開始時間を設定する

1. **十字キー（▶）を押す**

   「時間」の上下に▲▼が表示されます。

2. **十字キー（▲▼）で時間を設定し、十字キー（▶）を押す**

   「分」の上下に▲▼が表示されます。

3. **十字キー（▲▼）で分を設定する**

8 再生/OKボタンを2回押す

9 ボタンを押して、液晶モニタに を表示させる

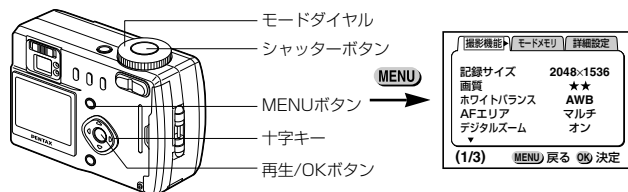
10 シャッターボタンを押す

インターバル撮影が始まります。

- 撮影間隔は、30秒から4分までの間は1秒単位で、4分から99分までの間は1分単位で設定することができます。
- 撮影枚数は、2枚から99枚の範囲で設定可能です。
- 撮影開始時間は、0秒から3時間59秒の間で1分単位で設定することができます。
- 撮影開始時間を0秒後に設定すると、シャッターボタンを押してすぐに1枚目の画像が撮影されます。
- CFカードまたは内蔵メモリの容量が足りなくなった場合には、インターバル撮影が終了しカメラの電源が自動的に切れます。

モードダイヤル
シャッターボタン
MENUボタン
十字キー
再生/OKボタン

MENU

撮影機能 モードメモリ 詳細設定
記録サイズ 2048×1536
画質 ★★
ホワイトバランス AWB
AFエリア マルチ
デジタルズーム オン
(1/3) MENU 戻る OK 決定

早送り動画を撮影する（早送り動画）

早送り動画を設定すると、フレームレート（1秒間に撮る画面回数）を遅らせて動画を撮影します。撮影した動画を再生すると、被写体が早送りされているように見えます。植物の開花の様子などを撮影するときに便利な機能です。

1 撮影モードでモードダイヤルを 🎥 に合わせる

2 MENUボタンを押す

「撮影機能」メニューが表示されます。

3 十字キー（▼）を押して「早送り動画」を選ぶ

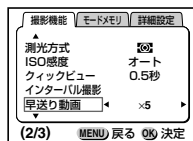
4 十字キー（◀ ▶）で「オフ（x1）」「x2」「x5」「x10」「x20」「x50」「x100」を切り替える

5 再生/OKボタンを押す

6 シャッターボタンを押す

早送り動画撮影が始まります。

メモ
オフ（×1）は通常の動画設定です（15フレーム毎秒）。×2、×5と選ぶごとに1秒間に撮影される回数は1/2、1/5と減少していきます。
動画再生は常に15フレーム毎秒ですので、×2で撮影したものは2倍に、×5で撮影したものは5倍で早送り再生されるように見えます。

撮影のための機能を設定する

ファインダーを視力に合わせる

ファインダー内の表示が見えにくいとき、視度を調整します。視度は－3m⁻¹～＋1m⁻¹（毎メートル）の範囲で調節できます。

1 カメラを明るい方に向け、ファインダーをのぞきながら視度調整レバーを左右に動かす

ファインダーの中のフォーカスフレームが最もはっきり見える位置に調整します。

フォーカスフレーム

フォーカスの設定を変える

●フォーカスモード

なし	オート	シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
(マクロ)	マクロモード	被写体までの距離が約14cm〜50cmのときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
▲	遠景モード	遠くにあるものを撮影するときに使用します。
MF	マニュアルフォーカスモード	手動でピントを合わせます。
AF	AFエリア移動モード	オートフォーカスの対象となる範囲（AFエリア）の位置を変更します。

1 撮影モードで MF/AF ボタンを押す

押すたびにフォーカスモードが切り替わり、設定値が液晶モニタに表示されます。

設定したフォーカスモードで撮影できます。

フォーカスモードを保存する ☞ p.72

・「モードメモリ」メニュー（p.72）の「フォーカス方式」をオンに設定していないと、電源をオフにしたときにフォーカスモードは「オート」に戻ります。
・フォーカスモードの初期値は「オート」です。オートのマーク表示はありません。

フォーカスモードを「マクロモード」に設定しているときは、ファインダーを見ながら撮影すると、撮影範囲がずれることがあります。

マニュアルでフォーカスを設定する

MF に設定すると、画面中央部が液晶モニタいっぱいに拡大表示されます。表示されたモニタ画像を見ながら、十字キーでピントをあわせます。

(▲) フォーカス位置が遠くなります。

(▼) フォーカス位置が近くなります。

十字キーから指を離すとフォーカス位置が決定し、2秒後に元のモニタ表示に戻ります。

マニュアルフォーカスモードを保存する ☞ p.72

暗い場所で撮影する場合、マニュアルフォーカスではピントが合わせにくくなります。オートモードに設定しシャッターボタンを半押しすると、AF補助光が発光され、ピントが合わせやすくなります。

オートフォーカス範囲（AFエリア）の位置を設定する

AF に設定すると、オートフォーカスの対象となる範囲（AFエリア）の位置を十字キーで変更することができます。

AFエリアが上に移動します。

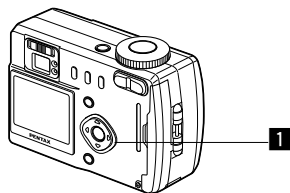
AFエリアが下に移動します。

AFエリアが左に移動します。

AFエリアが右に移動します。

再生/OKボタンを押すと、AFエリアが確定します。

AF に設定すると、AFエリアは自動的に「スポット」になります。このモードのときは、AF補助光が発光されません。

オートフォーカスの範囲を設定する ☞ p.65

露出を補正する

意図的に露出をオーバー（明るく）やアンダー（暗く）にして撮影することができます。

1 撮影モードで十字キー（◀▶）を押す

▶ 露出をプラス方向に設定します。

◀ 露出をマイナス方向に設定します

露出補正値

設定した値が液晶モニタに表示されます。

メモ

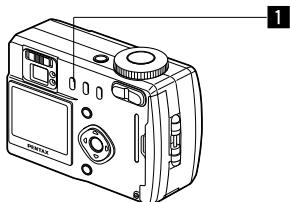
- ±0に設定した場合は、3秒で表示が消えます。
- 「モードメモリ」メニュー（p.72）の「露出補正」をオンに設定していないと、電源をオフにしたとき、補正値は±0に戻ります。

露出補正値を保存する ☞ p.72

マニュアル露出モードでは、露出補正はできません。

シャッター速度/絞り値を変える

「マニュアルで設定して撮影する（マニュアル露出モード）」（p.36）をご覧ください。

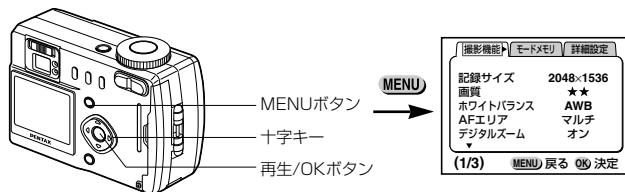
撮影

ストロボの発光方法を選択する

なし	オート	明るさに応じて自動的にストロボを発光します。
(発光禁止アイコン)	発光禁止	ストロボを発光しません。
(強制発光アイコン)	強制発光	明るさにかかわらず常にストロボを発光します。
(赤目A アイコン)	オート＋赤目軽減	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを、軽減します。 自動的にストロボを発光します。
(赤目強制アイコン)	強制発光＋赤目軽減	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを、軽減します。 常にストロボを発光します。

・撮影モードが にセットされているか、連続撮影、または遠景モードに設定されているときは、常に発光禁止になります。
・撮影モードが M のときは、「オート」と「オート＋赤目軽減」は選択できません。
・「オート＋赤目軽減」または「強制発光＋赤目軽減」では、撮影前に、瞳を小さくさせるためにストロボを1度発光させ、少し間をおいてからストロボ撮影を行ないます。

1 撮影モードで ボタンを押します。

押すたびに発光方法が切り替わり、設定値が液晶モニタに表示されます。充電中はストロボランプが赤色に点滅します。充電が完了してから、シャッターボタンを半押ししたときにストロボランプが赤色に点灯すると、設定したストロボ発光方法で撮影ができる状態になります。

ストロボ発光方法を保存する ☞ p.72

記録サイズを選択する

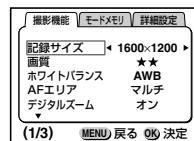
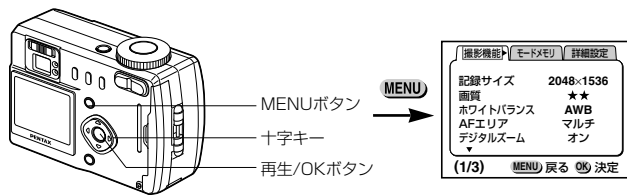
画像の解像度が選べます。Optio 430RSとOptio 330RSで選ぶことのできる解像度は下記の通りです。

Optio 430RS 「2304×1712」「2240×1680」「1600×1200」「1024×768」「640×480」
Optio 330RS 「2048×1536」「1600×1200」「1024×768」「640×480」

1 「撮影機能」メニューの「記録サイズ」を選ぶ

2 十字キー（◀ ▶）で記録サイズを切り替える

3 再生/OKボタンを押す

撮影ができる状態になります。

画質を選択する

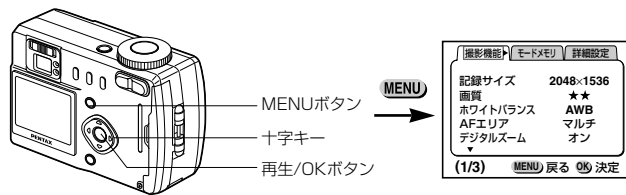
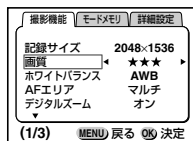
画像の圧縮率が選べます。

★★★	S.ファイン	画質はきれいになります。画像の容量は大きくなります。
★★	ファイン	標準画質
★	エコノミー	画質は粗くなります。画像の容量は小さくなります。

1 「撮影機能」メニューの「画質」を選ぶ

2 十字キー（◀ ▶）で画質を切り替える

3 再生/OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

ホワイトバランスを調整する

撮影時の光の状態に応じて、画像を自然な色あいに調整することができます。

AWB	オート	調整をカメラにまかせます。
☼	太陽光	晴れた屋外で撮影するときに設定します。
(日陰アイコン)	日陰	日陰で撮影するときに設定します。
(白熱灯アイコン)	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
(蛍光灯アイコン)	蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
(マニュアルアイコン)	マニュアル	手動で調整して撮影するときに設定します。

1 「撮影機能」メニューの「ホワイトバランス」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ホワイトバランス選択画面が表示されます。

3 十字キー（▲ ▼）で設定を切り替える

4 再生/OKボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

ホワイトバランスを保存する ☞ p.72

マニュアルで設定する

1 ホワイトバランス選択画面で （マニュアル）を選ぶ

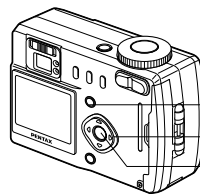
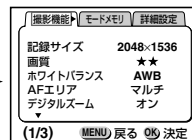
2 白い紙等を画面いっぱいに入れる

3 DISPLAYボタンを押す

調整が開始され、液晶モニタに「調整中」と表示されます。ホワイトバランスの調整が終了すると、液晶モニタに「完了」と表示され、メニュー画面に戻ります。

4 再生/OKボタンを押す

撮影できる状態に戻ります。

液晶モニタに「調整中」と表示されている間にもう一度DISPLAYボタンを押すと、ホワイトバランスの調整をはじめからやり直します。また、調整を途中でやめる場合は、再生/OKボタンを押します。

オートフォーカス範囲を設定する

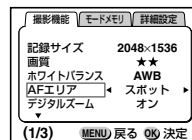
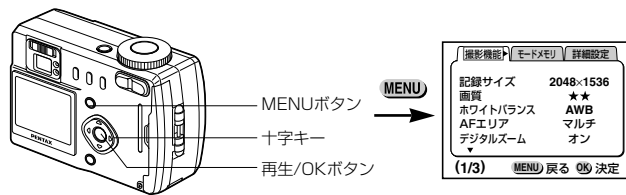
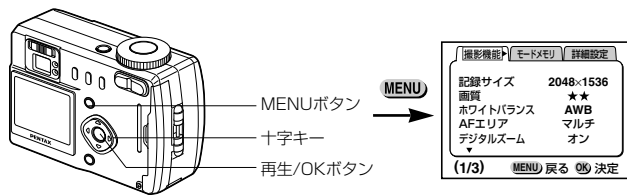
オートフォーカスの対象となる範囲（AFエリア）を変更できます。

マルチ	通常範囲
スポット	フォーカスが合う範囲を狭くします

1 「撮影機能」メニューの「AFエリア」を選ぶ

2 十字キー（◀ ▶）でAFエリアを切り替える

3 再生/OKボタンを押す

撮影できる状態に戻ります。

・AFエリアは、ファインダー内には表示されません。ピントを合わせる範囲は、必ず液晶モニタで確認してください。

測光範囲を設定する

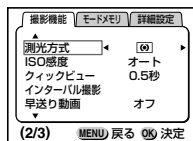
画面のどの部分で明るさを測り、露出を決定するのかを設定します。

[分割]	分割	画面全体をきめ細かく測光して露出を決定します。
[中央部重点]	中央部重点	画面中央を重点的に測光して露出を決定します。
[スポット]	スポット	画面の中央のみを測光して露出を決定します。

1 「撮影機能」メニューの「測光方式」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で測光方式を切り替える

3 再生/OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

測光方式を保存する ☞ p.72

ISO感度を設定する

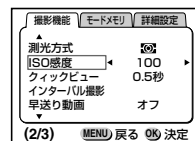
撮影する場所の明るさに応じて、感度を設定することができます。

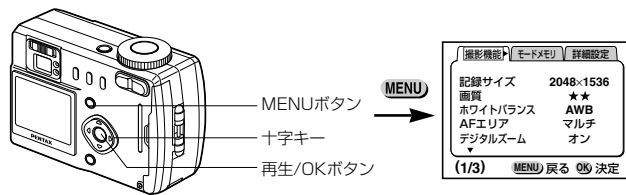
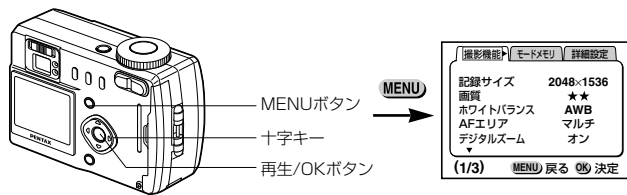
●ISO感度

オート	設定をカメラにまかせます（オート）
100（430RS） 125（330RS）	暗い場所ではシャッター速度が遅くなります。 ノイズの少ないシャープな画像が得られます。
200（430RS） 250（330RS）	画像にはノイズが増えます。 暗い場所でもシャッター速度を速くできます。

1 「撮影機能」メニューの「ISO感度」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）でISO感度値を切り替える

3 再生/OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

ISO感度を保存する ☞ p.72

クイックビューの時間を設定する

クイックビューの表示時間を0.5秒、1秒、2秒、3秒、4秒、5秒、オフ（表示しない）から選べます。

1 「撮影機能」メニューの「クイックビュー」を選ぶ

2 十字キー（◀ ▶）で表示時間を切り替える

3 再生/OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

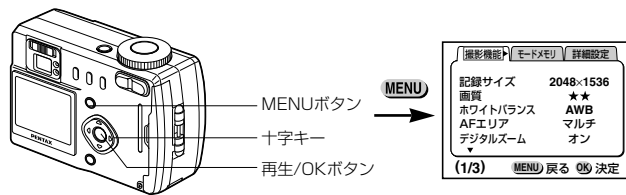
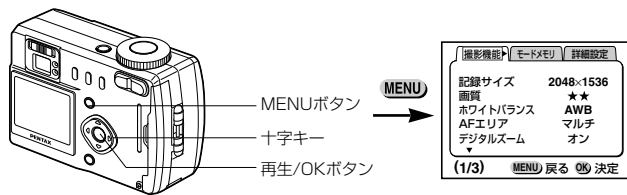
クイックビューの設定は、電源をオフにしても保持されます。

シャープネスを設定する

画像の輪郭をシャープまたはソフトにします。

1 「撮影機能」メニューの「シャープネス」を選ぶ

2 十字キー（◀ ▶）で「強（＋）」「標準」「弱（−）」を切り替える

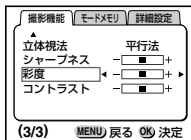
3 再生/OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

彩度を設定する

色の鮮やかさを設定します。

1 「撮影機能」メニューの「彩度」を選ぶ

2 十字キー（◀ ▶）で「強（＋）」「標準」「弱（－）」を切り替える

3 再生/OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

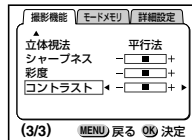
コントラストを設定する

画像の明暗差を設定します。

1 「撮影機能」メニューの「コントラスト」を選ぶ

2 十字キー（◀ ▶）で「強（＋）」「標準」「弱（－）」を切り替える

3 再生/OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

設定を保存する

メニュー項目を保存する（モードメモリ）

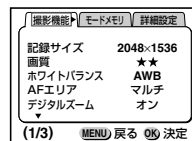
電源をオフにしたときに、撮影のために設定した値をメモリ（保存）するかどうかを選びます。☑ を選ぶと、電源オフ直前の設定状態をメモリします。□ を選ぶと、電源をオフにしたときに初期値に戻ります。

項目	内容	初期値
ストロボ	ボタンで設定した値を保存します。	☑
ホワイトバランス	「撮影機能」メニューの「ホワイトバランス」で設定した値を保存します。	□
露出補正	設定した露出補正値を保存します。	□
デジタルズーム	「撮影機能」メニューの「デジタルズーム」で設定した値を保存します。	☑
測光方式	「撮影機能」メニューの「測光方式」で設定した値を保存します。	□
ISO感度	「撮影機能」メニューの「ISO感度」で設定した値を保存します。	□
フォーカス方式	設定したフォーカスモードを保存します	□
ズーム位置	設定したズーム位置を保存します。	□
MF位置	マニュアルで設定したフォーカス位置を保存します。	□
DISPLAY	液晶モニタの表示モードを保存します。	□
ファイルNo.	ファイル番号を保存します。CFカードを入れ替えた場合でも連番でファイル名を作成します。	☑

「モードメモリ」に含まれないメニュー項目は、電源をオフにした後も、各機能のメニュー画面で設定された値が保持されます。

1 撮影モードでMENUボタンを押す

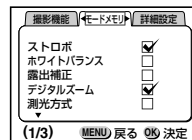
2 十字キー（▶）を押す

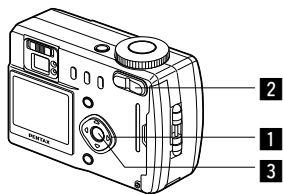
「モードメモリ」メニューが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

4 十字キー（◀▶）で ☑ と □ を切り替える

5 再生/OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

撮影機能 / モードメモリ / 詳細設定
ストロボ ☑
ホワイトバランス □
露出補正 □
デジタルズーム ☑
測光方式 □
(1/3) MENU 戻る OK 決定

画像を再生する

CFカードをセットしているときはCFカードに記録された画像が再生され、CFカードをセットしていないときはカメラの内蔵メモリに記録された画像が再生されます。

静止画を再生する

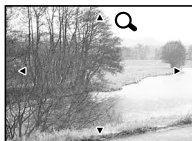
操作方法は「前後の見たい画像を再生する」(p.21) をご覧ください。

拡大して再生する

再生する画像を4倍まで拡大表示できます。拡大中は液晶モニタにガイドが表示されます。

1 再生モードに入り、十字キー(◀ ▶)で拡大表示したい画像を選ぶ

2 ズームボタンの 🌲 を押す

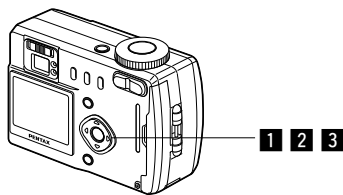
画像が大きく(1倍~4倍)表示されます。

●拡大表示中にできる操作

十字キー(▲▼◀▶)	拡大位置を移動する
ズームボタン(🌲)	画像を大きくする
ズームボタン(🌲🌲🌲)	画像を小さくする
DISPLAYボタン	ガイドをオン/オフする

3 再生/OKボタンを押す

拡大表示が終了します。

「詳細設定」メニューの「クイック拡大」をオンに設定すると、2でズームボタンの 🌲 を押したときに画像が4倍に拡大されて表示されます。

動画は拡大表示できません。

動画を再生する

動画を再生します。再生中は液晶モニタに操作ガイドが表示されます。

1 **再生モードに入り、十字キー（◀ ▶）で再生したい動画を選ぶ**

2 **十字キー（▲）を押す**

再生が開始します。

● 再生中にできる操作

十字キー（◀）	逆方向に再生する
十字キー（▶）	順方向に再生する
十字キー（▲）	一時停止する
DISPLAYボタン	DISPLAYモードを切り替える

● 一時停止中にできる操作

十字キー（◀）	コマ戻しする
十字キー（▶）	コマ送りする
十字キー（▲）	一時停止を解除する（再生する）
DISPLAYボタン	DISPLAYモードを切り替える

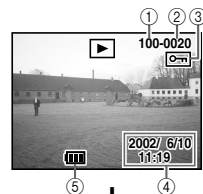
3 **十字キー（▼）を押す**

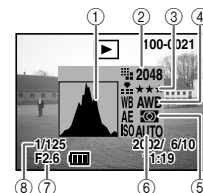
再生が停止します。

撮影時の情報を表示する（DISPLAYモード）

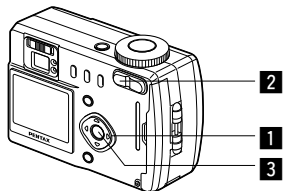
撮影時の情報を液晶モニタにオーバーレイ表示できます。DISPLAYボタンで表示される情報を切り替えます。

DISPLAYオン

撮影時の情報を表示します。
①フォルダ名　②ファイル名
③プロテクトマーク
④撮影日時　⑤バッテリーマーク

ヒストグラム表示

画像の明度分布を表示します。横軸は明るさ（左端が最も暗く、右端が最も明るい）、縦軸はピクセル数を表わします。
①ヒストグラム　②記録サイズ
③画質　④ホワイトバランス
⑤測光方式　⑥ISO感度
⑦絞り値　⑧シャッター速度

DISPLAYオフ

撮影時の情報を表示しません。

DISPLAYオン

9画像ずつ表示する

画面に9画像ずつ再生します。

1 再生モードに入り、十字キー（◀ ▶）で画像を選ぶ

2 ズームボタンの ▦ を押す

選択中の画面を中央にして、9画像が表示されます。

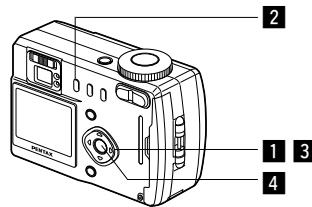
十字キー（▲▼◀▶）で画像が選べます。10枚以上の画像が記録されている場合、左列の画像を選択しているときに十字キー（◀）を押すと、前の9画像が表示されます。右列の画像を選択しているときに十字キー（▶）を押すと、次の9画像が表示されます。

選択画像

3 再生/OKボタンを押す

選択した画像が1枚表示されます。

動画は、1コマ目の画像が表示されます。

画像を消去する

1画像ずつ消去する

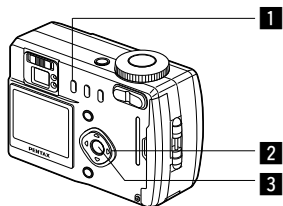
1 再生モードに入り、十字キー（◀ ▶）で消去したい画像を選ぶ

2 🗑 ボタンを押す

消去画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「消去」を選ぶ

4 再生/OKボタンを押す

・画像の消去は、クイックビュー（p.19）で画像表示中に行なうこともできます。
・プロテクト（ ）されている画像は、消去できません。
・「詳細設定」メニューの「クイック消去」をオンに設定すると、3の操作を省略することができます。

まとめて消去する

保存されている全画像を消去します。

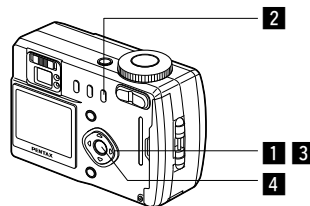
- 消去した画像は復元ができません。
- プロテクトされている画像は消去できません。
- CFカードをセットしているときは、CFカードに記録されている画像のみが消去されます。

1 再生モードに入り、🗑 ボタンを2回押す

消去（全画像）画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「全画像」を選ぶ

3 再生/OKボタンを押す

「詳細設定」メニューの「クイック消去」をオンに設定すると、2の操作を省略することができます。

消去できないようにする（プロテクト）

画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）することができます。

1 再生モードに入り、十字キー（◀▶）でプロテクトする画像を選ぶ

2 O-π ボタンを押す

プロテクト画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「プロテクト」を選ぶ

4 再生/OKボタンを押す

- プロテクトを解除するには、3 で「解除」を選びます。
- プロテクトされた画像には、再生時に O-π が表示されます。

全画像をプロテクトするには

全画像をプロテクトすることができます。

1 再生モードに入る

2 O-π ボタンを2回押す

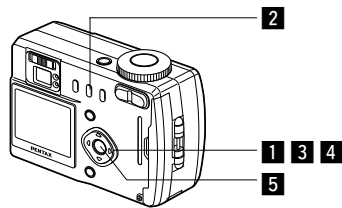
プロテクト（全画像）画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「プロテクト」を選ぶ

4 再生/OKボタンを押す

- プロテクトされた画像もCFカードや内蔵メモリをフォーマットすると消去されます。
- CFカードをセットしているときは、CFカードに記録されている画像のみがプロテクトされます。

プリントサービスの設定をする（DPOF）

CFカードに保存した画像は、DPOF（Digital Print Order Format）対応プリンタやラボプリントサービスでプリントできます。

1画像ずつ設定する

各画像ごとに、次の項目の設定をします。

- ●枚数
  プリントする枚数を設定します。99枚までの設定ができます。
- ●日付
  プリントする画像に日付を入れるか入れないかを設定します。

1 **再生モードに入り、十字キー（◀▶）でプリント指定する画像を選ぶ**

2 **DPOFボタンを押す**

DPOF画面が表示されます。

3 **十字キー（◀▶）でプリント枚数を設定し、十字キー（▼）を押す**

選択枠が「日付」に移動します。

4 **十字キー（◀▶）で日付の ☑ と □ を設定する**

☑ **プリントに日付を入れます**

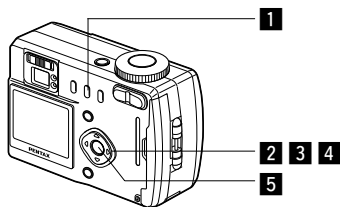
□ **プリントに日付を入れません**

5 **再生/OKボタンを押す**

設定した値でプリントできます。

すでにDPOFが設定されている画像は、設定された枚数と日付のオン/オフが表示されます。

- 内蔵メモリに保存されている画像や動画には、DPOFを設定することはできません。CFカードにコピー（p.106）したのち設定してください。
- プリンタやラボのプリント機器によっては、DPOFの設定がされていても、プリントに日付が写し込まれない場合があります。

再生・消去

全画像を設定する

1 再生モードに入り、DPOFボタンを2回押す

DPOF（全画像）画面が表示されます。

2 十字キー（◀ ▶）でプリント枚数を設定する

99枚まで設定ができます。

3 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

4 十字キー（◀ ▶）で日付の ☑ と □ を設定する

☑ プリントに日付を入れます

□ プリントに日付を入れません

5 再生/OKボタンを押す

設定した値でプリントできます。

・全画像設定を行なうと、1画像ずつの設定は解除されます。
・全画像設定でプリント枚数の指定をすると、すべてのコマに指定した枚数が設定されます。プリントをする前に必ず、枚数の設定が正しいか確認してください。

内蔵メモリに保存されている画像や動画には、DPOFを設定することはできません。CFカードにコピー（p.106）したのち設定してください。

Windowsパソコンで画像を見る

付属のUSBケーブル（I-USB6）やカードリーダーなどで画像をパソコンに転送し、画像閲覧用ソフトウェアを用いることで、カメラで撮影した画像をパソコンで編集・プリントできます。ここでは、付属のソフトウェアを使用して画像を見る方法を説明します。

添付ソフトウェアのご紹介

付属のCD-ROM（S-SW5）には、次のソフトウェアが含まれます。

・USBドライバ
・画像閲覧用ソフト（ACDSee™）

システム環境

・OS　Windows 98/98SE/2000/Me
　　　Windows XP Home Edition/Professional
・CPU　Pentium以降を推奨
・メモリ　64MB以上
・ハードディスクの空容量　15MB以上
・USBポートが標準で搭載されていること

動画を再生するにはDirectX8.0とOS標準添付のMedia Player（Windows Me/XPではMedia Playerのみ）、またはQuick Time 3.0以上が必要です。

・Windows95では、ご使用になれません。
・カメラをパソコンに接続するときは、ACアダプタ K-AC2J のご使用をお奨めします。画像の転送中に電池が消耗すると、画像データが壊れることがあります。

Optio430/330をすでにお持ちのお客様へ

Windows 98/98SEあるいはWindows Meのパソコンに Optio430/330のドライバが既にインストールされている場合は、Optio 430RS/330RSをパソコンに接続しないでください。パソコンの動作が停止(フリーズ)することがあります。
この現象は、パソコンにインストール済みのドライバを「更新」することで解決します。
詳しくは、お客様相談センターにお問い合わせいただくか、下記ホームページをご覧ください。

お客様相談センター　03(3960)0887
URL http://www.pentax.co.jp/japan/

ソフトウェアをインストールする

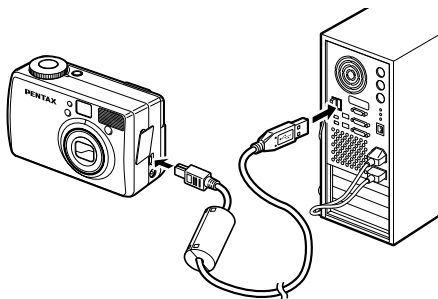
必要なソフトウェアをインストールします。

- Windowsの種類（98/98SE/Me/2000）によって、インストール手順が異なります。インストールを始める前に、お使いのWindowsの種類をご確認ください。Windows XPのインストール手順については、「USBドライバをインストールする（Windows XP）」（p.93）をご覧ください。
- Windows 2000およびWindows XP（Professional）の場合は、administrator権限でログオンしてからインストールを始めてください。ログオンのしかたは、パソコン付属の使用説明書をご覧ください。
- Optio 430RSとOptio 330RSとでは、インストール画面における表示が一部異なります。

USBドライバをインストールする（Windows98/98SE/2000/Me）

1 **パソコンの電源を入れる**

2 **付属のCD-ROM（S-SW5）を、パソコンのCD-ROMドライブにセットする**

3 **カメラの電源をオフにして、USBケーブルでパソコンとカメラを接続する**

4 **カメラの電源をオンにする**

カメラの接続が認識され、新しいハードウェアの追加ウィザード画面が表示されます。

Windows98/98SEの場合は、引き続き以下の手順にしたがって、インストール作業を行ってください。WindowsMeの場合はp.89に、Windows2000の場合はp.91にお進みください。

● Windows98/98SEの場合

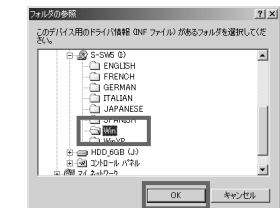
5 **「次へ」をクリックする**

6 **「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択して、「次へ」をクリックする**

7 **「検索場所の指定」だけをチェックして、「参照」をクリックする**

他の項目のチェックされている場合は、その項目をクリックしてチェックマークを外してください。

8 **CD-ROMドライブの「Win」フォルダをクリックして、「OK」をクリックする**

「+」をクリックすると、フォルダが開いて、中のファイルが表示されます。

9 「Win」フォルダが選択されたことを確認して、「次へ」をクリックする

10 「penusbp.inf」が表示されたことを確認して、「次へ」をクリックする

ドライバのインストールが開始されます。

11 「完了」をクリックする

インストールが完了し、ウィザード画面が閉じます。

12 カメラの電源をオフにして、パソコンを再起動する

Windowsが起動したら、カメラの電源をオンにする。

13 デスクトップ画面から「マイコンピュータ」をダブルクリックする

カメラの電源がオンになると、リムーバブルディスクが追加されます。

CFカードが入っている場合はCFカードがリムーバブルディスクとして認識されます。CFカードが入っていない場合は、内蔵メモリがリムーバブルディスクとして認識されます。

● **WindowsMeの場合**

5 「ドライバの場所を指定する」を選択して、「次へ」をクリックする

6 「検索場所の指定」だけをチェックして、「参照」をクリックする

「リムーバブルメディア」がチェックされている場合は、クリックして、チェックマークを外してください。

7 CD-ROMドライブの「Win」フォルダをクリックして、「OK」をクリックする

「＋」をクリックすると、フォルダが開いて、中のファイルが表示されます。

8 「Win」フォルダが選択されたことを確認して、「次へ」をクリックする

9 「penusbp.inf」が表示されたことを確認して、「次へ」をクリックする

ドライバのインストールが開始されます。

10 「完了」をクリックする

インストールが完了し、ウィザード画面が閉じます。

11 カメラの電源をオフにして、パソコンを再起動する

Windowsが起動したら、カメラの電源をオンにします。

12 デスクトップ画面から「マイコンピュータ」をダブルクリックする

カメラの電源がオンになると、リムーバブルディスクが追加されます。

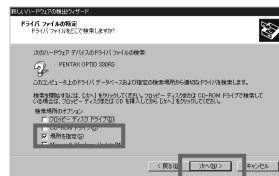
CFカードが入っている場合はCFカードがリムーバブルディスクとして認識されます。CFカードが入っていない場合は、内蔵メモリがリムーバブルディスクとして認識されます。

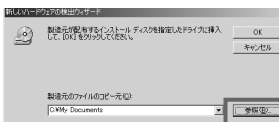
● Windows2000の場合

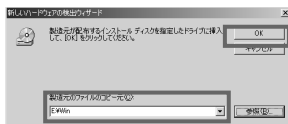
5 「次へ」をクリックする

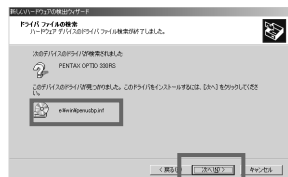
6 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択して、「次へ」をクリックする

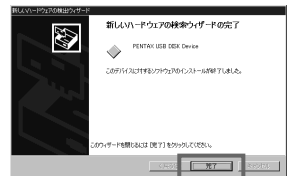
7 「場所を指定」だけをチェックして、「次へ」をクリックする

他の項目のチェックされている場合は、その項目をクリックしてチェックマークを外してください。

8 「参照」をクリックする

「ファイルの場所」画面が表示されます。

9 CD-ROMドライブの「Win」フォルダを選択し、「penusbp.inf」が表示されていることを確認して、「開く」をクリックする

10 ファイルのコピー元に「Win」フォルダが選択されたことを確認して、「OK」をクリックする

11 「penusbp.inf」が表示されたことを確認して、「次へ」をクリックする

ドライバのインストールが開始されます。

12 「完了」をクリックする

インストールが完了し、ウィザード画面が閉じます。

13 デスクトップ画面から「マイコンピュータ」をダブルクリックする

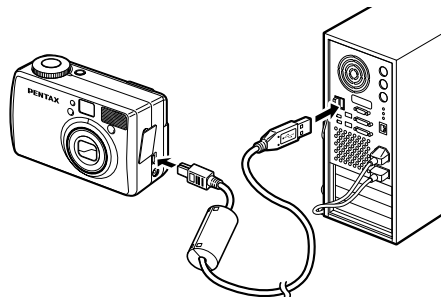
カメラの電源がオンになると、リムーバブルディスクが追加されます。

CFカードが入っている場合はCFカードがリムーバブルディスクとして認識されます。CFカードが入っていない場合は、内蔵メモリがリムーバブルディスクとして認識されます。

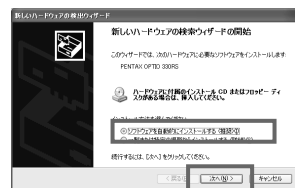
USBドライバをインストールする（WindowsXP）

1 パソコンの電源を入れる

2 付属のCD-ROM（S-SW5）を、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

3 カメラの電源をオフにして、USBケーブルでパソコンとカメラを接続する

4 カメラの電源を入れる

タスクバーに「新しいハードウェアが見つかりました」と表示され、「新しいハードウェアの検索ウィザード」画面が表示されます。

5 「ソフトウェアを自動的にインストールする（推奨）」を選択して、「次へ」をクリックする

6 **インストール完了のメッセージが表示されたら、「完了」をクリックする**

インストールが完了し、ウィザード画面が閉じます。

Windowsが自動的に実行する動作を選択する画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックします。

7 **「スタート」メニューから「マイコンピュータ」をクリックする**

インストール終了後に、リムーバブルディスクがマイコンピュータに追加されたことを確認します。

- CFカードが入っている場合はCFカードがリムーバブルディスクとして認識されます。CFカードが入っていない場合は、内蔵メモリがリムーバブルディスクとして認識されます。
- WindowsXPの場合、CFカードにボリュームラベルがついていると、「リムーバブルディスク」と表示されずにボリュームラベル名に記載されている内容が表示されます。フォーマットされていない新しいCFカードは、メーカー名や型番が表示される場合があります。

ACDSee™をインストールする

ACDSee™をインストールすると、撮影した画像をパソコンで見ることができます。

1 **パソコンの電源を入れる**

2 **付属のCD-ROM（S-SW5）をパソコンのCD-ROMドライブにセットする**

3 **「マイコンピュータ」をダブルクリックする**

4 **CD-ROMドライブをダブルクリックする**

5 **「Japanese」をダブルクリックする**

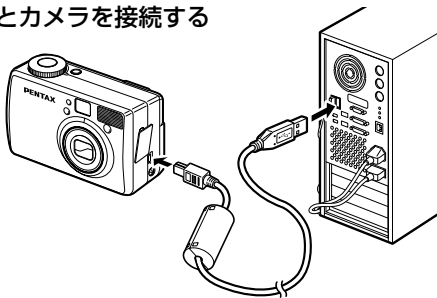
6 **「setup.exe」をダブルクリックする**

セットアップ画面が表示されます。画面の指示に従い、登録情報を入力し、インストール作業を進めてください。

7 **インストールが完了したら、Windowsを再起動する**

カメラとパソコンを接続する

1 パソコンの電源を入れる

2 カメラの電源をオフにして、USBケーブルでパソコンとカメラを接続する

3 カメラの電源をオンにする

カメラは「マイコンピュータ」の「リムーバブルディスク」として認識されます。

- CFカードが入っている場合はCFカードがリムーバブルディスクとして認識されます。CFカードが入っていない場合は、内蔵メモリがリムーバブルディスクとして認識されます。
- 上記の状態で画像を見たり印刷したりできますが、写真のデータはカメラの内蔵メモリまたはCFカード内にありますので、内蔵メモリまたはCFカード内の写真データを他のメディアに保存したい場合は、パソコンの使用説明書を参考にエクスプローラー等を利用してファイルをコピーあるいは移動させてください。編集する場合は、パソコン側へ画像をコピーしてから行ってください。
- WindowsXPの場合、CFカードにボリュームラベルがついていると、「リムーバブルディスク」と表示されずにボリュームラベル名に記載されている内容が表示されます。フォーマットされていない新しいCFカードは、メーカー名や型番が表示される場合があります。

パソコンで画像を見る

1 デスクトップ画面から「ACDSee™」アイコンをダブルクリックする

2 見たい画像を選ぶ

カメラの画像は「マイコンピュータ」→「リムーバブルディスク（CFカードにボリュームラベル名が記載されている場合はその名称）」→「DCIM」→「×××PENTX」（×××は、3桁の数字）フォルダーの中にあります。

上記の手順で動画も再生できます。

パソコンからカメラを取り外す

パソコンからカメラを取り外す（Windows2000）

1 デスクトップ右下のステータスバーの（ホットプラグアイコン）をダブルクリックする

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

2 「PENTAX USB Disk Device」が選択されていることを確認して「停止」をクリックする

「ハードウェアデバイスの停止」画面が表示されます。

3 「PENTAX USB Disk Device」が選択されていることを確認して「OK」をクリックする

メッセージが表示されます。

4 「OK」をクリックする

5 USBケーブルをパソコンとカメラから取り外す

Windows98/98SE/Meでは、ホットプラグアイコンはありません。カメラを外すときは、カメラの電源を切り、そのまま、USBケーブルを外してください。

パソコンからカメラを取り外す（WindowsXP）

1 タスクバーの「ハードウェアの取り外し」アイコンをダブルクリックする

2 「PENTAX USB DISK Device」をクリックして「停止」をクリックする

3 「PENTAX USB DISK Device」－ドライブ（X:）をクリックして「OK」をクリックする

4 取り外し許可のメッセージが表示されたら、カメラの電源をオフにして、カメラをパソコンから取り外す

Macintoshで画像を見る

付属のUSBケーブル（I-USB6）やカードリーダーなどで画像をパソコンに転送し、画像閲覧用ソフトウェアを用いることで、カメラで撮影した画像をパソコンで編集・プリントできます。ここでは、付属のソフトウェアを使用して画像を見る方法を説明します。

添付ソフトウェアのご紹介

付属のCD-ROM（S-SW5）には、次のソフトウェアが含まれます。

- ・USBドライバ
- ・画像閲覧用ソフト（ACDSee™）

システム環境

- ・OS　Mac OS8.6以上（QuickTime4.0以降が必要）
- ・CPU　PowerPC 266MHz以上
- ・メモリ　8MB以上
- ・ハードディスクの空容量　6MB以上
- ・USBポートが標準で搭載されていること

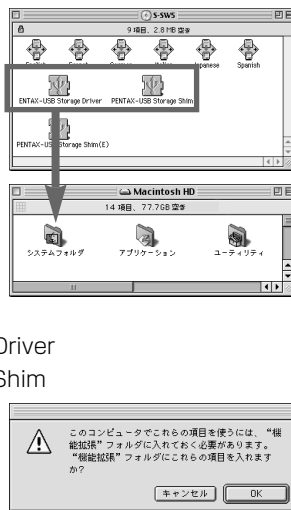
動画を再生するには、MacOS標準添付のQuickTime4.0以上が必要です。

・カメラをパソコンに接続するときは、ACアダプタ K-AC2Jのご使用をお奨めします。画像の転送中に電池が消耗すると、画像データが壊れることがあります。

ソフトウェアをインストールする

必要なソフトウェアをインストールします。

USBドライバをインストールする（Mac OS8.6のみ）

1. Macintoshの電源を入れる
2. CD-ROM（S-SW5）をMacintoshのCD-ROMドライブにセットする
3. CD-ROM（S-SW5）のアイコンをダブルクリックする
4. Macintoshのシステムフォルダーへ、CD-ROM（S-SW5）から次の2つのファイルをドラッグする
   - ・PENTAX-USB Storage Driver
   - ・PENTAX-USB Storage Shim
5. OKボタンをクリックする
6. Macintoshを再起動する。

Mac OS9.0以降では、付属のUSBドライバをインストールする必要はありません。

ACDSee™をインストールする

ACDSee™をインストールすると、撮影した画像をMacintoshで見ることができます。

1 Macintoshの電源を入れる

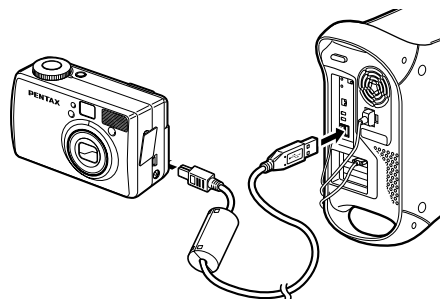
2 CD-ROM（S-SW5）をMacintoshのCD-ROMドライブにセットする

3 CD-ROM（S-SW5）上の「Japanese」をダブルクリックする

4 画面の指示に従い、登録情報を入力し、インストールを行なう

カメラとMacintoshを接続する

1 Macintoshの電源を入れます。

2 カメラの電源をオフにして、USBケーブルでMacintoshとカメラを接続する

3 カメラの電源をオンにする

カメラはデスクトップ上の「名称未設定」として認識されます。フォルダー名は変更できます。

- CFカードが入っている場合はCFカードが名称未設定として認識されます。CFカードが入っていない場合は、内蔵メモリが名称未設定として認識されます。
- この状態で、画像を見たり、印刷したりできますが、写真のデータはカメラの内蔵メモリまたはCFカード内にありますので、内蔵メモリまたはCFカード内の写真データを他のメディアに保存したい場合は、Macintoshの使用説明書を参考にファイルをコピーあるいは移動させてください。編集する場合は、Macintoshへ画像をコピーしてから行ってください。
- CFカードにボリュームラベルがついていると、「名称未設定」と表示されずにボリュームラベル名に記載されている内容が表示されます。フォーマットされていない新しいCFカードは、メーカー名や型番が表示される場合があります。

再生・消去

Macintoshで画像を見る

1 ハードドライブ上の「ACDSee™」フォルダーをダブルクリックする

2 「ACDSee™」のプログラムアイコンをダブルクリックする

3 見たい画像を選ぶ

カメラの画像はデスクトップ上の「名称未設定（CFカードにボリュームラベル名が記載されている場合はその名称）」→「DCIM」→「×××PENTX」（×××は、3桁の数字）フォルダーの中にあります。

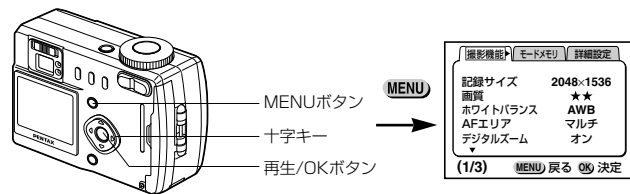
- 上記の手順で動画も再生できます。
- CFカードにボリュームラベルがついていると、「名称未設定」と表示されずにボリュームラベル名に記載されている内容が表示されます。フォーマットされていない新しいCFカードは、メーカー名や型番が表示される場合があります。

Macintoshからカメラを取り外す

1 デスクトップ上の「名称未設定（CFカードにボリュームラベル名が記載されている場合はその名称）」をごみ箱にドラッグする

2 USBケーブルをMacintoshとカメラから取り外す

画像を編集する

「詳細設定」メニューの呼び出しかた

画像をコピーする

内蔵メモリとCFカードとの間で画像をコピーします。

内蔵メモリからCFカードへコピーする

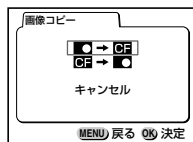
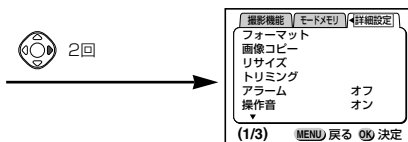
内蔵メモリに保存されている全ての画像をCFカードへコピーします。

1 「詳細設定」メニューの「画像コピー」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

画像コピー画面が表示されます。

3 再生/OKボタンを押す

コピーが開始されます。コピーが終わると撮影または再生できる状態になります。

CFカードの空き容量が不足しているときは、「CFカードの空き容量が足りません。画像をコピーできません。」とメッセージが表示されます。新しいCFカードをセットするか、不要な画像を消去してください。

CFカードから内蔵メモリへコピーする

CFカードに保存されている画像を、1画像ずつ内蔵メモリへコピーします。

1 「詳細設定」メニューの「画像コピー」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

画像コピー画面が表示されます。

3 十字キー（▼）で「CF→■」を選ぶ

4 再生/OKボタンを押す

コピーできる画像が表示されます。

5 十字キー（◀ ▶）でコピーしたい画像を選ぶ

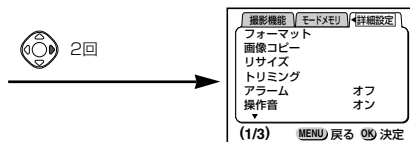
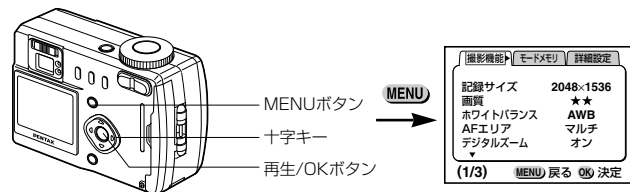
6 再生/OKボタンを押す

コピーが開始されます。コピーが終わると前の画面に戻ります。

続けてコピーをしたいときは、5と6を繰り返します。シャッターボタンを半押し（または全押し）すると撮影できる状態になります。

「詳細設定」メニューの呼び出しかた

MENUボタン
十字キー
再生/OKボタン

撮影機能	モードメモリ	詳細設定
記録サイズ	2048×1536	
画質	★★	
ホワイトバランス	AWB	
AFエリア	マルチ	
デジタルズーム	オン	
(1/3)	MENU 戻る	OK 決定

内蔵メモリの空き容量が不足しているときは、「内蔵メモリの空き容量が足りません。画像をコピーできません。」とメッセージが表示されます。内蔵メモリをフォーマットするか、不要な画像を消去してください。

画像をトリミングする

画像の一部分をトリミングして、別の画像として保存します。

1 「詳細設定」メニューの「トリミング」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

トリミングできる画面が表示されます。

3 十字キー（◀ ▶）でトリミングする画像を選ぶ

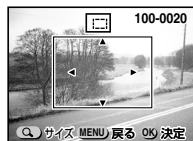
4 再生/OKボタンを押す

トリミング画面が表示されます。

5 トリミングする

100-0020
サイズ MENU 戻る OK 決定

●トリミング画面でできる操作

ズームボタン	画像の大きさを変える
十字キー	トリミング位置を上下左右に移動する
MENUボタン	メニュー画面に戻る

6 再生/OKボタンを押す

7 十字キー（◀ ▶）で記録サイズを選ぶ

8 十字キー（▼）を押す

選択枠が「画質」に移動します。

9 十字キー（◀ ▶）で画質を選ぶ

10 再生/OKボタンを押す

トリミングされた画像が別の画像として保存されます。

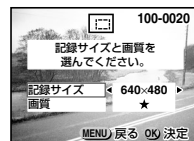
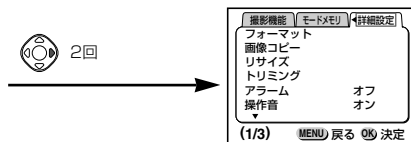
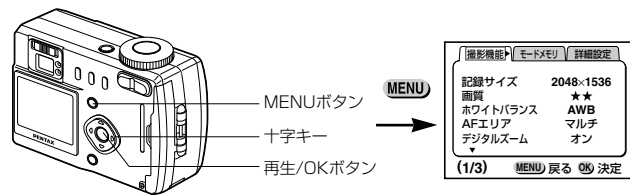
「詳細設定」メニューの呼び出しかた

MENUボタン
十字キー
再生/OKボタン

MENU

撮影機能	モードメモリ	詳細設定
記録サイズ	2048×1536	
画質	★★	
ホワイトバランス	AWB	
AFエリア	マルチ	
デジタルズーム	オン	
(1/3)	MENU 戻る	OK 決定

2回

撮影機能	モードメモリ	詳細設定
フォーマット		
画像コピー		
リサイズ		
トリミング		
アラーム	オフ	
操作音	オン	
(1/3)	MENU 戻る	OK 決定

画像のサイズを変更する（リサイズ）

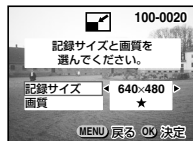
選択した画像の記録サイズと画質を変更して、ファイルサイズを元のファイルサイズよりも小さくすることができます。サイズを変更した画像は、元の画像に上書き保存することも、新規の画像として保存することもできます。

1 「詳細設定」メニューの「リサイズ」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

リサイズ画面が表示されます。

3 十字キー（◀ ▶）でリサイズする画像を選ぶ

4 再生/OKボタンを押す

5 十字キー（◀ ▶）で「記録サイズ」を選ぶ

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「画質」に移動します。

7 十字キー（◀ ▶）で「画質」を選ぶ

8 再生/OKボタンを押す

9 十字キー（▲ ▼）で「上書き保存」「新規保存」を選ぶ

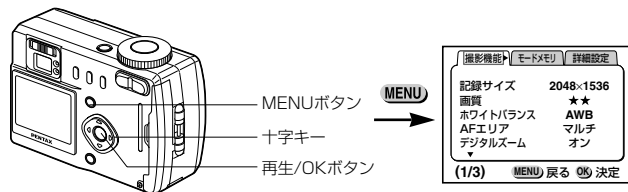
10 再生/OKボタンを押す

画像がリサイズされます。

・動画のサイズを変更することはできません。
・Optio 430RSでは、記録サイズが2304 × 1712の静止画をサイズ変更すると、画像の一部がカットされます。

画像の編集・設定

カメラの設定をする

「詳細設定」メニューの呼び出しかた

フォーマットする

CFカードをセットしているときは、CFカードに保存されているすべてのデータを消去し、CFカードを初期化します。CFカードをセットしていないときは、カメラの内蔵メモリに保存されているすべてのデータを消去し、内蔵メモリを初期化します。

・CFカードのフォーマット中は、CFカードカバーを開けないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
・フォーマットを行なうと、プロテクトされた画像も消去されます。ご注意ください。

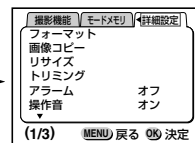
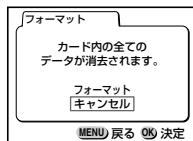
1 「詳細設定」メニューの「フォーマット」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

フォーマット画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「フォーマット」を選ぶ

4 再生/OKボタンを押す

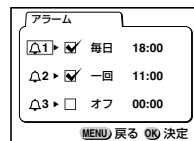
フォーマットが開始されます。フォーマットが終わると撮影または再生できる状態になります。

決まった時刻にアラームを鳴らす

指定した時刻にアラームを鳴らし、指定した画像を表示できます。

アラームを確認する

1 「詳細設定」メニューの「アラーム」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

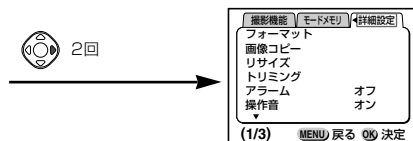
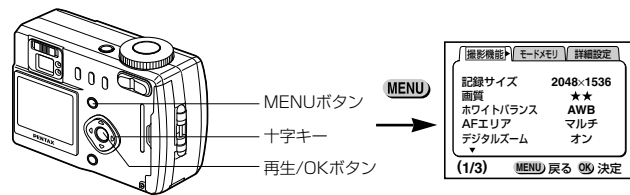
アラーム一覧が表示されます。
オンのアラームは ☑ で表示されます。

3 再生/OKボタンを3回押します。

オンのアラームがあるときは、電源がオフになり、アラームがセットされます。

「詳細設定」メニューの呼び出しかた

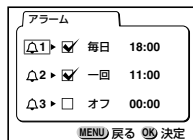
MENUボタン
十字キー
再生/OKボタン

MENU

撮影機能 モードメモリ 詳細設定
記録サイズ 2048×1536
画質 ★★
ホワイトバランス AWB
AFエリア マルチ
デジタルズーム オン
(1/3) MENU 戻る OK 決定

アラームを設定する

1 「詳細設定」メニューで「アラーム」を選ぶ

2 十字キー(▶)を押す

アラーム一覧が表示されます。

3 十字キー(▲ ▼)で1〜3を選ぶ

4 十字キー(▶)を押す

動作モードと時刻を設定する画面が表示されます。

十字キー(◀ ▶)
項目を移動します。
十字キー(▲ ▼)
設定値を切り替えます。

5 DPOFボタンを押す

6 十字キー(◀ ▶)を押して、アラーム時に表示する画像を選ぶ

7 再生/OKボタンを押す

8 再生/OKボタンを3回押す

電源がオフになります。

アラームを停止する

電源をオフにしているときに指定した時刻になると、アラームが1分間鳴ります。
鳴り終わると自動的に電源がオフになります。

ボタン(ズームボタンを除く)を押してアラームを停止することができます。

注意

アラームは電源がオンのときには鳴りません。

操作音をオン/オフする

操作音や動作音をオン/オフできます。

1 「詳細設定」メニューの「操作音」を選ぶ

2 十字キー(◀ ▶)で「オン」と「オフ」を切り替える

3 再生/OKボタンを押す

撮影または再生できる状態になります。

「詳細設定」メニューの呼び出しかた

MENUボタン
十字キー
再生/OKボタン

撮影機能	モードメモリ	詳細設定
記録サイズ	2048×1536	
画質	★★	
ホワイトバランス	AWB	
AFエリア	マルチ	
デジタルズーム	オン	

(1/3) MENU 戻る OK 決定

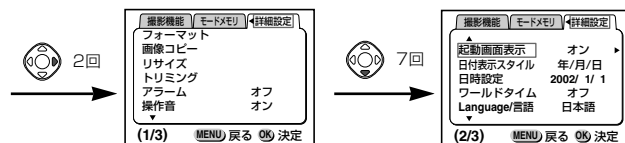
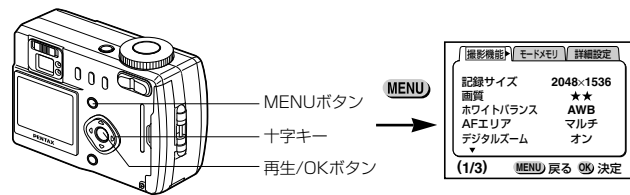
2回

撮影機能	モードメモリ	詳細設定
フォーマット		
画像コピー		
リサイズ		
トリミング		
アラーム	オフ	
操作音	オン	

(1/3) MENU 戻る OK 決定

7回

撮影機能	モードメモリ	詳細設定
起動画面表示	オン	
日付表示スタイル	年/月/日	
日時設定	2002/ 1/ 1	
ワールドタイム	オフ	
Language/言語	日本語	

(2/3) MENU 戻る OK 決定

起動画面を変更する

Optio 430RS/330RSで撮影した画像を、カメラの電源を入れたときに、起動画面として表示させることができます。

1 「詳細設定」メニューで「起動画面表示」を選ぶ
2 十字キー（▶）を押す
3 DPOFボタンを押す
4 十字キー（◀ ▶）を押して、起動画面として表示する画像を選ぶ
5 再生/OKボタンを押す
6 十字キー（◀ ▶）で「オン」「オフ」を選ぶ
7 再生/OKボタンを2回押す
撮影または再生できる状態になります。

一度設定した起動画面は、元の画像を消去したり、内蔵メモリやCFカードをフォーマットしても消去されません。

日付の表示スタイルを変更する

カメラに表示する日付の表示形式を設定します。
「年月日」「月日年」「日月年」から選べます。

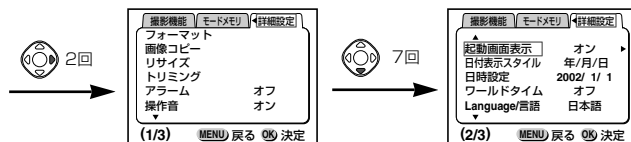
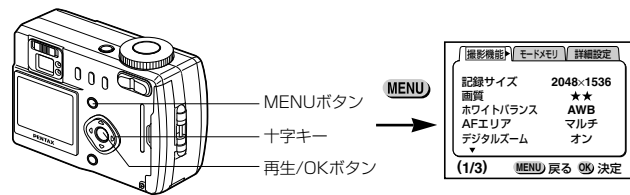
1 「詳細設定」メニューの「日付表示スタイル」を選ぶ
2 十字キー（◀ ▶）で日付スタイルを切り替える
3 再生/OKボタンを押す
設定した日付表示で撮影または再生できる状態になります。

日付／時刻を変更する

初期設定で設定した日付と時刻を変更します。

1 「詳細設定」メニューの「日時設定」を選ぶ
2 十字キー（▶）で日付スタイルを切り替える
日時設定画面が表示されます。

日時の設定方法は「初期設定をする」(p.16)をご覧ください。

画像の編集・設定

ワールドタイムを設定する

「初期設定をする」(p.16)で設定した日時は、「ホームタイム」として設定されます。
撮影時および再生時に、「ホームタイム」以外の都市の日時(ワールドタイム)を表示できます。

1 「詳細設定」メニューの「ワールドタイム」を選ぶ

2 十字キー(▶)を押す

ワールドタイム設定画面が表示されます。

3 十字キー(◀▶)で☑と□を切り替える

☑ ワールドタイムで選択した国の時刻表示になります。
□ ホームタイムで選択した国の時刻表示になります。

4 十字キー(▼)を押す

選択枠が「✈」に移動します。

5 十字キー(◀▶)でワールドタイムの都市を選び、十字キー(▼)を押す

6 十字キー(◀▶)で「夏時間」のオン(☼)/オフ(表示なし)を切り替え、十字キー(▼)を押す

選択枠が「⌂」に移動します。

十字キー(◀▶)でホームタイムの都市や、「夏時間」のオン／オフを変更できます。

7 再生/OKボタンを押す

設定した都市の日時で撮影または再生できる状態になります。

指定できる都市および都市の記号名については、p.124をご覧ください。

表示言語を変更する

メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。

1 「詳細設定」メニューの「Language/言語」を選ぶ

2 十字キー(◀▶)で言語を選ぶ

3 再生/OKボタンを押す

撮影または再生できる状態になります。

画像の編集・設定

「詳細設定」メニューの呼び出しかた

MENUボタン
十字キー
再生/OKボタン

撮影機能	モードメモリ	詳細設定
記録サイズ	2048×1536	
画質	★★	
ホワイトバランス	AWB	
AFエリア	マルチ	
デジタルズーム	オン	

(1/3) MENU 戻る OK 決定

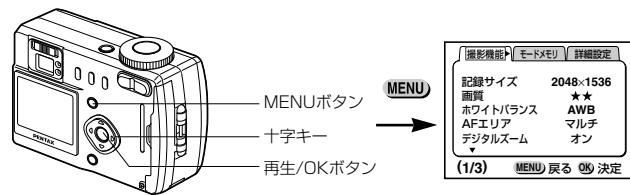
2回

撮影機能	モードメモリ	詳細設定
フォーマット		
画像コピー		
リサイズ		
トリミング		
アラーム	オフ	
操作音	オン	

(1/3) MENU 戻る OK 決定

1回

撮影機能	モードメモリ	詳細設定
スリープ	1分	
オートパワーオフ	3分	
クイック消去	オフ	
クイック拡大	オフ	
リセット		

(3/3) MENU 戻る OK 決定

節電機能を設定する（スリープ）

一定時間操作しないときに、自動的に液晶モニタが消えるように設定できます。

1 「詳細設定」メニューの「スリープ」を選ぶ
2 十字キー（◀ ▶）で「1分」「2分」「オフ」「30秒」を切り替える
3 再生/OKボタンを押す
撮影または再生できる状態になります。

オートパワーオフ

一定時間操作しないときに、自動的に電源が切れるように設定できます。

1 「詳細設定」メニューの「オートパワーオフ」を選ぶ
2 十字キー（◀ ▶）で「3分」「5分」「オフ」を切り替える
3 再生/OKボタンを押す
撮影または再生できる状態になります。

メモ　メニュー画面を表示させてから1分間何も操作しないと、メニュー画面が終了します。

クイック消去

クイック消去をオンに設定すると、「消去」「全画像」が選択された状態で消去画面が表示されます。

1 「詳細設定」メニューで「クイック消去」を選ぶ
2 十字キー（◀ ▶）で「オン」「オフ」を切り替える
3 再生/OKボタンを押す
撮影または再生できる状態になります。

クイック拡大

拡大再生時にズームボタンを一度押しただけで最大拡大倍率で画像を再生するように設定します。

1 「詳細設定」メニューで「クイック拡大」を選ぶ
2 十字キー（◀ ▶）で「オン」「オフ」を切り替える
3 再生/OKボタンを押す
撮影または再生できる状態になります。

画像の編集・設定

「詳細設定」メニューの呼び出しかた

MENUボタン
十字キー
再生/OKボタン

MENU

撮影機能	モードメモリ	詳細設定
記録サイズ	2048×1536	
画質	★★	
ホワイトバランス	AWB	
AFエリア	マルチ	
デジタルズーム	オン	

(1/3) MENU 戻る OK 決定

設定をリセットする

日時設定、Language/言語、ホームタイム、アラーム、日時表示スタイル以外の設定内容をリセットします。

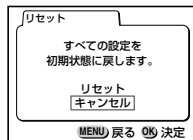
1 「詳細設定」メニューの「リセット」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

リセット画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「リセット」を選ぶ

4 再生/OKボタンを押す

撮影または再生できる状態になります。

付録
都市名一覧

ワールドタイムで指定できる都市、および都市の記号名です。

PPG	パゴパゴ	THR	テヘラン
HNL	ホノルル	DXB	ドバイ
ANC	アンカレジ	KHI	カラチ
YVR	バンクーバー	KBL	カブール
SFO	サンフランシスコ	MLE	マーレ
LAX	ロサンゼルス	DEL	デリー
YYC	カルガリー	CMB	コロンボ
DEN	デンバー	KTM	カトマンズ
MEX	メキシコシティ	DAC	ダッカ
CHI	シカゴ	RGN	ヤンゴン
MIA	マイアミ	BKK	バンコク
YTO	トロント	KUL	クアラルンプール
NYC	ニューヨーク	VTE	ビエンチャン
SCL	サンティアゴ	SIN	シンガポール
CCS	カラカス	PNH	プノンペン
YHZ	ハリファックス	SGN	ホーチミン
BUE	ブエノスアイレス	JKT	ジャカルタ
SAO	サンパウロ	HKG	香港
RIO	リオデジャネイロ	PER	パース
MAD	マドリッド	BJS	北京
LON	ロンドン	SHA	上海
PAR	パリ	MNL	マニラ
MIL	ミラノ	TPE	台北
ROM	ローマ	SEL	ソウル
BER	ベルリン	ADL	アデレード
JNB	ヨハネスブルグ	TYO	東京
IST	イスタンブール	GUM	グァム
CAI	カイロ	SYD	シドニー
JRS	エルサレム	NOU	ヌーメア
MOW	モスクワ	WLG	ウェリントン
JED	ジッダ	AKL	オークランド

メッセージ一覧

カメラを使用中に、液晶モニタに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

圧縮に失敗しました。	画像の圧縮に失敗しました。 画質／サイズを変えて、もう一度撮影してください。
カード空き容量なし。	容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。新しいCFカードをセットするか、不要な画像を消去してください。(p.14、79) 画質／サイズを変えると保存できる可能性があります。(p.61、62)
内蔵メモリ空き容量なし。	容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。不要な画像を消去してください。(p.79) 画質／サイズを変えると保存できる可能性があります。(p.61、62)
画像がありません。	再生できる画像が保存されていません。
この画像を表示できません。	このカメラでは再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
この画像はプロテクトされています。	プロテクトされている画像を消去しようとしています。(p.81)
バッテリ容量が無くなりました。	バッテリー残量がありません。バッテリーを充電するか、充電済みのバッテリーと交換してください。(p.10、11)
バッテリ容量が無くなりました。画像を保存できませんでした。	保存の途中でバッテリー容量がなくなったため、撮影できませんでした。バッテリーを充電するか、充電済みのバッテリーと交換して、もう一度撮影してください。(p.10、11)
カードが異常です。	CFカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコンでは表示できる場合があります。
カードがフォーマットされていません。	フォーマットされていないCFカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたCFカードがセットされています。(p.112)
画像を記録中です。	画像を記録しています。

DPOF設定を記録中です。	DPOF設定をCFカードに記録しています。
映像を記録中です。	動画を記録しています。
プロテクトの設定を記録中です。	画像のプロテクト設定を記録しています。
フォーマット中	内蔵メモリまたはCFカードをフォーマット中です。
アラームを設定しました。	アラームの設定をオンにしました。
フォルダが作成できません。	最大のファイルNo.が使用されているため、画像を保存できません。新しいCFカードをセットするか、CFカードをフォーマットしてください。(p. 112)
CFカードの空き容量が足りません。画像をコピーできません。	CFカードに容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像をコピーできません。新しいCFカードをセットするか、不要な画像を消去してください。(p. 14、79) 画質または記録サイズを変えると保存できる可能性があります。(p. 61、62)
内蔵メモリの空き容量が足りません。画像をコピーできません。	内蔵メモリに容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像をコピーできません。不要な画像を消去してください。(p. 79) 画質または記録サイズを変えると保存できる可能性があります。(p. 61、62)

こんなときは？

	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	CFカードカバーが開いている	CFカードカバーを閉じてください。
	バッテリーの入れかたを間違えている	バッテリーの挿入方向を確認してください。バッテリーのラベルをカメラの背面側に向けて入れなおしてください。(p.11)
	バッテリーの残量がない	充電済みのバッテリーをセットしてください。または、ACアダプタを使用してください。
液晶モニタに何も表示されない	液晶モニタがオフにセットされている	DISPLAYボタンを押すと、液晶モニタがオンになります。(p.32、77)
	表示はされているが、確認しづらい	日中屋外での撮影は、液晶モニタが表示されていても、確認しづらいことがあります。
シャッターが切れない	再生モードにセットされている	再生/OKボタンを押すか、シャッターボタンを半押しして撮影モードに戻してください。
	ストロボが充電中	ストロボランプが赤色に点滅している間は、ストロボが充電中で撮影できません。充電が完了すると赤色に点灯します。
	内蔵メモリやCFカードに空き容量がない	空き容量のあるCFカードをセットするか、不要な画像を消去してください。(p.14、79)
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	コントラストの低いもの（青空や白壁など）、暗いもの、細かい模様のもの、速く動いているもの、窓やネット越しの風景などは、オートフォーカスが苦手なものです。一旦撮りたいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。
	AFエリアに被写体が入っていない	液晶モニタ中央の四角枠内（AFエリア）に、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、AFエリアにない場合は、一旦撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。
	被写体が近すぎる	フォーカスモードを にセットしてください。（p.56）
	フォーカスモードが になっている	フォーカスモードが にセットされているときは、通常の撮影域にはピントが合いません。
	マニュアルフォーカスモードになっている	マニュアルフォーカスモードに設定されているときは、十字ボタン（▲ ▼）でピントを調整してください。（p.57）
ファインダーがはっきり見えない	視度が合っていない	撮影する人の視力に、カメラのファインダーの視度が合っていません。視度調整レバーで視度の調整を行ってください。（p.55）

現象	原因	対処方法
撮影した画像が暗い	撮るものまでの距離が遠い	撮るものまでの距離が遠すぎると、撮影した画像が暗くなります。ストロボの光がとどく範囲で撮影してください。
	背景が暗い	夜景など暗い背景で人物の写真を撮ると、人物は適正露出でも背景にはストロボの光がとどきませんので暗くなってしまうことがあります。 モードにセットして撮影すると、人物も夜景もきれいに撮ることができます。（p.35）
ストロボが発光しない	ストロボの発光方法が発光禁止になっている	オートまたは に設定してください。（p.34、60）
	撮影モードが にセットされているか、連続撮影、または遠景モードに設定されている	これらのモードではストロボは発光しません。
撮影した画像を内蔵メモリに記録できない、また、内蔵メモリに記録した画像を再生できない	CFカードがセットされている	CFカードがセットされていると、画像はすべてCFカードに記録されます。また、再生モードでは、CFカードに記録された画像のみが再生されます。撮影した画像を内蔵メモリに記録したり、内蔵メモリに記録した画像を再生する場合は、CFカードを取り出してください。

主な仕様

型式	ズームレンズ内蔵全自動コンパクトタイプデジタルスチルカメラ
有効画素数	400万画素（430RS）、320万画素（330RS）
撮像素子	総画素数413万画素（430RS）、334万画素（330RS）、 原色フィルタ／インターライントランスファー1/1.8
記録画素数	静止画　2304 × 1712ピクセル（430RS）、 2240 × 1680ピクセル（430RS）、 2048 × 1536ピクセル（330RS）、 1600 × 1200ピクセル、1024 × 768ピクセル、 640 × 480ピクセル 動　画　320 × 240ピクセル
感度	オート、マニュアル（430RS: ISO100相当、ISO200相当、 330RS: ISO125相当、ISO250相当）
記録方式	静止画　JPEG（Exif2.2）、DCF準拠、DPOF対応 動　画　AVI（Open DML Motion JPEG準拠）、15フレーム/秒
画質	S.ファイン、ファイン、エコノミー
記録媒体	内蔵メモリ（約11MB）、コンパクトフラッシュ（CF）Type I
ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、白熱灯、蛍光灯、マニュアル
レンズ	焦点距離　7.6 mm～22.8 mm（35 mmフィルム換算：37.5～112.5 mm相当） F値　F2.6～F4.8 レンズ構成　6群7枚（両面非球面レンズ2枚使用） ズーム方式　電動式 撮影範囲　139mm×104mmを画面一杯に撮影可能（ワイド端でマクロモードおよびマニュアルフォーカス時） レンズバリア　電動式
デジタルズーム	撮影時：最大2倍（光学3倍ズームと合わせ、最大6倍ズーム相当のズーム倍率）
ファインダー	方式　実像式ズームファインダー 倍率　ワイド 0.41×、テレ 1.15× 視度調整　-3m⁻¹～+1m⁻¹（毎メートル） ファインダー内表示　オートフォーカス枠
液晶モニタ	1.6型TFTカラーLCD（バックライト付）、視野率100%
再生機能	1コマ、インデックス（9画面）、拡大（最大4倍）、スクロール、 ムービー再生、ヒストグラム表示
オートフォーカス	方式　撮影素子によるTTLコントラスト検出方式 撮影範囲（レンズ前面から）　ノーマル：0.4 m～∞（ズーム全域） マクロ：0.14 m～0.5 m（ワイド端） 遠景：∞ フォーカスロック　シャッターボタン半押しによる

マニュアルフォーカス	0.4 m～∞（ワイド端時は、0.14m～∞）
露出機構	測光方式　撮像素子によるTTL測光（分割、中央部重点、スポット） 露出モード　オート、夜景、マニュアル、動画、多重露出 露出補正　±2EV（1/3EVステップで設定可能） 動画　撮影時間約1秒～約30秒
シャッター	型式　メカニカル併用電子シャッター 速度　約1/2000秒～約4秒
ストロボ	型式　赤目軽減機能付オートストロボ 発光モード　オート、発光禁止、強制発光、オート＋赤目軽減、強制発光＋赤目軽減
ドライブモード	1コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー撮影、リモコン撮影、 インターバル撮影
セルフタイマー	電子制御式、作動時間：約10秒
リモコン	ペンタックスリモートコントロールF（別売）、 受信より約3秒後に露出開始
時計機能	ワールドタイム設定　世界62都市に対応（28タイムゾーン） アラーム　選択した画像を指定時間にアラームと同時に表示（最大3メモリー）
電源	専用充電式リチウムイオンバッテリー、ACアダプタキット （別売）
撮影可能枚数	約250枚（ストロボ使用率50%、液晶モニタオン） ※当社撮影条件による目安
入出力ポート	USB端子（PC通信方式 USB1.1）、外部電源端子
大きさ	92（幅）× 59（高）× 32（厚）mm （最厚部 34.5mm）
質量	200 g（バッテリー、CFカード含まず） 235 g（バッテリー、CFカードを含む）
付属品	充電式リチウムイオンバッテリー、バッテリー充電器キット、 USBケーブル、3Dイメージビュワー、ソフトウェア（CD-ROM）、 ストラップ、使用説明書、保証書

別売りアクセサリー一覧

本機には、別売りアクセサリーとして以下の製品が用意されています。

ACアダプタキット（K-AC2J）

バッテリー充電器キット（K-BC2J）

充電式リチウムイオンバッテリー（D-LI2）

ペンタックスリモートコントロールF

USBケーブル（I-USB6）

ストラップ（ST-5）

カメラケース（O-CC2）

防水ケース（O-WP1）

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か当社のお客様相談センター、またはお客様窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと梱包してお送りください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2. 保証期間中[ご購入後1年間]は、保証書[販売店印および購入年月日が記入されているもの]をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店、当社のお客様相談センター、またはお客様窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤の入った場所での保管等）や手入れの不備（泥・砂・ホコリ・水かぶり・ショック等）による故障。
   - 保証書の添付のない場合。
   - 販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。

4. 保証期間以後の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。

5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社のお客様相談センター、またはお客様窓口にお問い合わせください。

6. 海外旅行をされる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、当社のお客様相談センター、またはお客様窓口でお持ちの保証書と交換に発行しております。[保証期間のみ有効]

7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

お客様窓口のご案内

ペンタックス　ホームページアドレス http://www.pentax.co.jp/
お客様相談センター（弊社製品に関するお問い合わせ）
〒174-8639 東京都板橋区前野町2-36-9
営業時間 午前9：00～午後6：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）
0570-001313（市内通話料でご利用いただけます。）
携帯電話、PHSの方は、下記の電話番号をご利用ください。
☎ 03(3960)3200㈹　☎ 03(3960)0887 デジタルカメラ専用

[ショールーム・写真展・修理受付]

ペンタックスフォーラム　☎ 03(3348)2941㈹
〒163-0401 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル1階(私書箱240号)
営業時間 午前10：30～午後6：30（年末年始および三井ビル点検日を除き年中無休）

[修理受付]

ペンタックス 札幌営業所お客様窓口　☎ 011(612)3231㈹
〒060-0010 札幌市中央区北10条西18-36 ペンタックス札幌ビル2階
営業時間 午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 仙台営業所お客様窓口　☎ 022(371)6663㈹
〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-7-1 千代田生命泉中央駅ビル5階
営業時間 午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 名古屋営業所お客様窓口　☎ 052(962)5331㈹
〒461-0001 名古屋市東区泉1-19-8 ペンタックスビル3階
営業時間 午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 広島営業所お客様窓口　☎ 082(234)5681㈹
〒730-0851 広島市中区榎町2-15 榎町ビュロー3階
営業時間 午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 福岡営業所お客様窓口　☎ 092(281)6868㈹
〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-8 パールビル2階
営業時間 午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

[直送修理受付・修理に関するお問い合わせ]

ペンタックスサービス㈱ 東日本修理センター　☎ 03(3975)4341㈹
〒175-0082 東京都板橋区高島平6-6-2 旭光学工業㈱流通センター内
営業時間 午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックスサービス㈱ 西日本修理センター　☎ 06(6271)7996㈹
〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間 午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

旭光学工業株式会社
〒174-8639　東京都板橋区前野町2-36-9
ペンタックス販売株式会社
〒100-0014　東京都千代田区永田町1-11-1

☆この説明書には再生紙を使用しています。
☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

57218　01-200206